

四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限五箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十二條 生徒ニ缺員アルトキハ身體健全、品行方正ニシテ學力及年齢當該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得

第五十三條 入學志願者ノ檢定ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五十四條 必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ豫備科ヲ修了シタル者以外ノ入學者ニ對シ四箇月以内ノ期間ニ於テ假入學ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十六條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第五十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第六節 學費

第五十九條 公費生ノ員數、之ニ支給スヘキ學費及其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

第六十條 懲戒ニ因リ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニ對シテハ地方長官ハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

前項授業費ノ金額ハ年額三拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第七節 卒業後ノ服務

第六十一條 本科卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事シ尙特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ他ノ道府縣、臺灣又ハ樺太ニ於テ就職スルコトヲ得

一 第一部公費男子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年

二 第一部公費女子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

三 第一部私費卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年

四 第二部卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十二條 本科公費卒業生ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス

一 第一部男子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年

二 第一部女子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

三 第二部卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十三條 學費ノ支給額ニ差等ヲ設ケタル場合ニ於テ本科第一部公費卒業生ニシテ最多額ノ支給ヲ受ケサル者ニ就キテハ第六十一條ノ期間ヲ男子五箇年、女子三箇年トス

第六十四條 特別ノ事情アルトキハ前三條ノ期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ本邦兒童ノ爲外國ニ於テ小學校ノ教員ノ職ニ從事スルコトヲ得

前項ノ服務ハ第六十一條及第六十二條ノ服務ト同視ス

第六十五條 服務期間内ニ於テ教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスル者アルトキハ地方長官ハ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ學校ニ入學シタル場合ニ於テハ在學中第六十一條及第六十二條ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス其ノ卒業シタル場合ニ於テ當該學校ニ關スル法令ノ規定ニ依リ卒業後服務義務ヲ有スルトキハ第六十一條及第六十二條ノ義務ハ之ヲ免除ス

第六十六條 本科卒業生ニシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡クスコト能ハサル事由ヲ生シタル者又ハ外國政府ノ招聘ニ應シ教員ノ職ニ從事セントスル者アルトキハ地方長官ハ必要ト認ムル期間内ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

第六十七條 本科卒業生ニシテ服務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ地方長官ハ公費卒業生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費、私費

卒業者ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

一 正當ノ事由ナクシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡ササルトキ

二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ

三 小學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

四 前條前段ノ事由ニ因リ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ

第六十八條 前條授業費ノ金額ハ年額三十圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第三章 講習科

第六十九條 小學校教員講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

特別ノ必要アルトキハ尋常小學校教員タラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲ス爲小學校教員講習科ヲ設クルコトヲ得

第七十條 尋常小學校准教員タラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又

ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ一箇年以上トス

尋常小學校本科正教員タラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ尋常小學校准教員免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ二箇年以上トス

第七十一條 幼稚園保姆講習科ハ保姆タラントスル者又ハ保姆タルヘキ資格ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

第七十二條 講習期間一箇年以上ノ講習ヲ置キタルトキハ一學級毎ニ一人以上ノ割合ヲ以テ第四十六條ノ教員定數ヲ増スヘシ

第七十三條 講習科ニ關シ必要ナル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第七十四條 師範學校ニハ附屬小學校ヲ設クヘシ

女生徒ヲ置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設クヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ文部大臣之ヲ得

臣ノ許可ヲ受ケ市町村立小學校ヲ以テ附屬小學校ニ代用シ又ハ市町村立若ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ附屬幼稚園ニ代用スルコトヲ得

第七十五條 附屬小學校及附屬幼稚園ニハ小學校令第一條乃至第三條、第十八條乃至第二十七條、第三十七條

第三十八條、第四十七條、小學校令施行規則第一條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十五條

第一項及第四項、第三十七條、第三十八條、第四十二條乃至第五十三條、第五十六條、第九十五條乃至第二百二條、第二百六條、第二百七條ヲ準用ス但シ小學校令第二十三條、第二十七條第三項、小學校令施行規則第十八條ノ二、第十九條、第三十一條第四項、第四十四條、第四十六條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第七十六條 附屬小學校ニ於テハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スヘシ

第七十七條 附屬小學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、數學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル師範學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級ヲ設ケサルコト

第七十八條 附屬小學校ニ於テハ二部教授ヲ行フヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十九條 附屬小學校ノ教員ハ小學校ノ正教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第八十條 附屬小學校ノ授業料及附屬幼稚園ノ保育料ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五章 設備

第八十一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

前項ノ外農業ヲ加ヘタル學校ニ於テハ農業實習地ヲ備フヘシ

第八十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道徳上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第八十三條 校舍ニ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルヘシ

第八十四條 體操場ハ屋内體操場及屋外體操場トス

第八十五條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第八十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住

宅ヲ設クヘシ

第八十七條 校舍、寄宿舎及屋內體操場ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ツヘシ

第六章 設置及廢止

第八十八條 師範學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十九條 前條ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具申スヘシ

- 一 名稱
 - 二 位置
 - 三 學科
 - 四 生徒及兒童ノ定員、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ幼兒ノ定員
 - 五 學級ノ編制、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ組ノ編制
 - 六 開校年月
 - 七 經費
- 前項第一號、第二號、第六號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第一號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ニ届出ツヘシ
- 前二項ノ位置ニ關シテハ校地ノ面積、地質、屋外體操

場ノ區域、面積竝ニ附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面及用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第七章 補則

第九十條 地方長官ハ師範學校ノ學則ヲ定メ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程及教授時數ニ關スル事項
- 三 生徒ノ學業成績調査ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項
- 五 學資及授業費ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 七 生徒ノ取締ニ關スル事項
- 八 講習科ニ關スル事項
- 九 附屬小學校及附屬幼稚園ニ關スル事項
- 十 其ノ他必要ナル事項

第八章 附則

第九十一條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九十二條 從前ノ規定ニ依ル本科ハ本令施行ノ日ヨリ

當然本科第一部ニ變更セラレタルモノト看做ス

第九十三條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル女生徒ノ修業年限ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依ルコトヲ妨ケス

第九十四條 第六條及第二十八條ノ學科目中法制及經濟ハ當分ノ之ヲ缺クコトヲ得

第八條第三項及第三十條第二項ニ規定シタル現行法制上ノ事項ノ大要ハ當分ノ之ヲ授ケサルコトヲ得

法制及經濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第九十五條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ從前ノ規定ヲ斟酌シ又ハ之ニ依ルコトヲ得

第九十六條 本令施行ノ際現ニ簡易科ニ在學スル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十七條 簡易科卒業者ノ服務義務ニ關シテハ第二章第七節ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ服務期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九十八條 本令施行前師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ授業費償還ニ關スル規定ヲ適用セス

第九十九條 明治二十四年文部省令第二十六號、明治二

十五年文部省令第八號、同第十號乃至第十二號、同第十五號、明治二十六年文部省令第十四號、明治三十年文部省令第十九號、同第二十一號及明治三十一年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

第七章 實業學校

●實業學校令 (明治三十二年二月勅令第二十九號)

第一條 實業學校ハ工業農業商業ノ實業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 實業學校ノ種類ハ工業學校農業學校商業學校商船學校及實業補習學校トス

第三條 實業學校山林學校獸醫學校及水産學校等ハ農業學校ト看做ス

第四條 徒弟學校ハ工業學校ノ種類トス

第五條 第二條ノ二 實業學校ニシテ高等ノ教育ヲ爲スモノヲ實業專門學校トス

第六條 實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ本條追加)

第七條 北海道及府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得但シ道府縣立實業補習學校ハ他ノ道府縣立學校ニ

附設スル場合ニ限ル

文部大臣ハ土地ノ情況ニ應シ必要ナル實業學校ノ設置ヲ北海道又ハ府縣ニ命スルコトヲ得(同上ヲ以テ本條改正)

第四條 (同上ヲ以テ削除)

第五條 郡市町村北海道沖繩縣ノ區、北海道一級町村二級町村、沖繩縣間切島又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り實業學校ヲ設置スルコトヲ得(同上ヲ以テ本條改正)

市町村又ハ町村學校組合ハ前項ニ依リ實業學校ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲區ヲ設クルコトヲ得(三十五年勅令第三百二十二號ヲ以テ本項追加)

第五條ノ二 商業會議所ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得(同上)

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 公立又ハ私立ノ工業學校農業學校商業學校商船學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ公立又ハ私立ノ實業補習學校ノ設置廢止ハ道府縣立ニ係ルモノヲ除ク外地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ
公立又ハ私立ノ實業學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ本條改正)

部大臣之ヲ定ム(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ本條改正)

第八條 實業學校ノ修業年限學科、學科目及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(同上)

第九條 實業學校ノ教科書ハ公立學校ニ在リテハ學校長ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十條 公立又ハ私立ノ實業學校教員ノ資格ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(同上)

第十一條 公立實業學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム(同上)

第十二條 公立實業補習學校職員ノ名稱待遇ハ公立小學校ノ例ニ依ル

第十三條 公立又ハ私立ノ實業學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(三十六年勅令第六十二號ヲ以テ本條改正)

第十四條 實業學校ニ於テハ授業科ヲ徵收スルコトヲ得
第十五條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十六條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十七條 (三十六年勅令第六十二號ヲ以テ削除)

第十八條 他ノ法令中ニ技藝學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然實業學校ト看做ス

第十九條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中徒弟學校及實業補習學校ニ開スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ
三十六年勅令第六十二號附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

札幌農學校、盛岡高等農林學校、東京高等商業學校、神戸高等商業學校、東京高等工業學校、大阪高等工業學校及京都高等工藝學校ハ本令施行ノ日ヨリ實業專門學校トス

●實業學校設置廢止規則

(明治三十二年三月文部省令第十二號)

第一條 工業學校農業學校商業學校及商船學校ヲ設置セシトスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理ニ於テ私立學校ニ在リテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ稟申スヘシ但實業學校令第三條ニ依リ設置スル場合ニハ第九號ノ事項ヲ具スルコトヲ要セス(三十六年文部省令第十五號ヲ以テ但書改正)

一 名 稱

二 位 置

三 學 則

四 生徒定員

五 開校年月 (三十六年勅令第六十二號以下類案)

六 敷地建物ノ圖面(坪數地質附近ノ情況ヲ記載シタルモノ)並ニ其所有ノ區別

七 收入支出豫算表

八 職員數及俸級額ノ豫定

九 設置區域内ニ於ケル當該實業ノ情況

十 設立者ノ履歷法人又ハ組合ノ設立ニ係ルモノハ其定款、寄附行爲又ハ組合契約及ヒ其沿革但定款又ハ寄附行爲ニシテ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ添付ヲ要セス

前項第一號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ

第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ノ變更ハ道府縣立ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ(三十六年文部省令第五號、同年同令第十五號ヲ以テ改正)

第二條 (三十六年文部省令第十五號ヲ以テ削除)

第三條 (三十八年文部省令第十七號ヲ以テ削除)

第四條 第一條ノ學校ヲ廢止セントスルトキハ其事由並

ニ生徒ノ處分方法ヲ具シテ文部大臣ニ稟申スヘシ

第五條 (三十八年文部省令第十七號ヲ以テ削除)

第六條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ但其設立廢止ノ稟申ニ關シテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ

附 則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

工業學校規程 (明治三十二年二月文部省令第八號)

第一條 工業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年以内延長スルコトヲ得

第二條 工業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ毎週二十七時以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 工業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、圖畫、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、博物、外國語、經濟、法規、簿記及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

- 一 土木科 測量、應用力學、河海工、道路鐵道、橋梁、施工法、製圖等
 - 一 金工科 應用力學、工場用具及製作法、製造用諸機械大意、發動機大意、製圖等
 - 一 造船科 應用力學、工場用具及製作法、發動機大意、造船製圖等
 - 一 電氣科 應用力學、工場用具及製作法、發動機大意、電氣及磁氣、電氣工學、製圖等
 - 一 木工科 應用力學、家屋構造、工場用具及製作法、建築沿革、施工法、配景法、製圖及繪畫等
 - 一 鑛業科 地質、探鑛、冶金、試金、應用力學、發動機大意、測量製圖及坑内演習等
 - 一 染織科 機械法、色染法、應用化學、應用機械學、分析、製圖及繪畫等
 - 一 窯業科 窯業品製造、應用化學、應用機械學、分析、製圖及繪畫等
 - 一 漆工科 漆器製造法、工藝史、繪畫、應用化學大意等
 - 一 圖案繪畫科 配景法、解剖大意、工藝史、建築沿革大意、繪畫、應用化學大意、各種工藝品圖案等
- 前項ノ外特種工業ノ爲ニハ便宜學科ヲ設クルコトヲ得

第四條 工業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限二箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試験科目ニ加フルコトヲ得 (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第五條 工業學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第六條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第七條 豫科ノ授業時數ハ毎週三十時以内トス

第八條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術

地理、歴史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加フルコトヲ得

第九條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十條 工業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ工業ニ必要ナル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十一條 (四十年文部省令第二號ヲ以テ本條削除)

第十二條 (同上)

第十三條 (三十七年文部省令第七號ヲ以テ本條削除)

第十四條 (三十六年文部省令第十七號ヲ以テ本條削除)

第十五條 工業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

- 一 學校ノ目的
- 二 修業年限
- 三 授業日數
- 四 休業日
- 五 學科目及其程度
- 六 各學科目毎週授業時數
- 七 入學退學ノ規程
- 八 試驗法
- 九 賞罰ノ規程
- 十 授業料規程(授業料ヲ徴收スル場合)
- 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
- 十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項
- 第十六條 工業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス
- 第十七條 工業學校ニ於テハ校地内若クハ其附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス
- 第十八條 工業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、工業實習場、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス
- 第十九條 工業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書器具、機械、標本、模型、實習用諸機械、體操用器具ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十條 本令ハ明治卅二年四月一日ヨリ施行ス

四十年文部省令第二十七號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

工業學校ニ於ケル修業年限四箇年ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●農業學校規程 (明治三十二年二月文部省令第九號)

第一條 農業學校ハ甲乙ノ二種トス (三十六年文部省令第十

七號ヲ以テ第二項削除)

第二條 甲種農業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但一箇年

以內延長スルコトヲ得

第三條 甲種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十

時以內トス但實習時數ハ農事ノ繁閑ニ應シテ定ムヘシ

第四條 甲種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數

學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ實業ニ關スル

科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法

規、簿記、圖畫及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル科目ハ土壤、肥料、作物、園藝、農産製

造、畜産、養蠶、病蟲害、氣候、林學大意、獸醫學大

意、水産學大意等ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定

ムヘシ

第五條 甲種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年

以上學力修業年限二箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同

等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得 (四

十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第六條 乙種農業學校ノ修業年限ハ三箇年以內トス

第七條 乙種農業學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十

七時以內トス但實習時數ハ農事ノ繁閑ニ應シ適宜之ヲ

定ムヘシ

第八條 乙種農業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、

數學、理科、體操並實業ニ關スル科目及實習ヨリ選擇

シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ但修身及實業ニ關

スル科目ハ之ヲ缺クコトヲ得ス (三十七年文部省令第五號

ヲ以テ改正)

前項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル科目ハ土壤、肥料、作物、農産製造、家

畜、養蠶、病蟲害、氣候等ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シ

テ之ヲ定ムヘシ

第九條 乙種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年

以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 甲種農業學校ニハ豫科ヲ設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以內トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ每週三十時以內トス

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算

術、地理、歴史、理科、圖畫、體操トス但外國語ヲ加

フルコトヲ得

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學

力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ (四十年文

部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十五條 農業學校ニハ簡易ノ方法ニ依リ農業ニ必要ナ

ル事項ヲ教授スル爲別科ヲ設クルコトヲ得

第十六條 修業期一箇年以內ノ乙種農業學校ノ教場及別

科ノ教場ハ隨時必要ノ地ニ分設スルコトヲ得

第十七條 (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ本條削除)

第十八條 (同上)

第十九條 (三十七年文部省令第七號ヲ以テ削除)

第二十條 農業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的

二 修業年限

三 授業日數

四 休業日

五 學科目及其程度

六 學科目每週授業時數

七 入學退學ノ規程

八 試驗法

九 賞罰ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徵收スル場合)

十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)

十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十一條 農業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級

數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十二條 農業學校ニ於テハ校內若クハ其附近ニ於テ

體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所及實習用ニ供スヘキ必要

ノ農地ヲ設クルコトヲ要ス

第二十三條 農業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、作

業場、肥料場等ノ建物ヲ備フルコトヲ要ス

第二十四條 農業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖

書、器具、機械、農具、標本、體操用器具等ヲ備フル

コトヲ要ス

第二十五條 蠶業學校、山林學校、獸醫學校ハ第四條第八

條ノ外總テ前各條ニ準ス (三十四年文部省令第十

二十六條 蠶業學校、山林學校、獸醫學校ノ學科目ハ

左ノ如シ(同上)

甲種ノ學校ニ在リテハ修身、讀書、作文、數學、物理、化學、博物、經濟、體操並ニ實業ニ關スル科目及實習トス但本項科目ノ外地理、歴史、外國語、法規、簿記、圖畫及其他ノ科目ヲ便宜加設シ獸醫學校ニ在リテハ數學、物理、博物、經濟ヲ缺クコトヲ得

乙種ノ學校ニ在リテハ其ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、理科、體操並實業ニ關スル科目及實習ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ但シ修身及實業ニ關スル科目ハ之ヲ缺クコトヲ得(三十七年文部省令第七號ヲ以テ條中改正)前項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得(同上ヲ以テ)

甲乙兩種學校ノ各學科ノ實業ニ關スル科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 蠶業學校ニ在リテハ蠶體解剖生理及病理、養蠶及製種、製絲、桑樹栽培、氣候、農學大意等

一 山林學校ニ在リテハ造林及森林保護、森林利用、森林測量及土木、測樹術及林價算法、森林經理、氣候、農學大意等

一 獸醫學校ニ在リテハ解剖及組織、生理、藥物及調劑法、蹄鐵法及蹄病論、内科、外科、寄生動物、畜産、衛生、獸疫、産科、剖檢法等

(三十四年文部省令第六號ヲ以テ第四號削除)

附 則

第二十七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十八條 明治二十七年文部省令第十九號簡易農學校規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

四十年文部省令第二十七號附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

甲種農業學校ニ於ケル修業年限四箇年ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

乙種農業學校ニ於テハ本令施行後三箇年間ニ限り修業年限四箇年ノ尋常小學校ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

● 水産學校程

(明治三十四年十二月文部省令第十六號)

第一條 水産學校本科ノ修業年限ハ三箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ二箇年乃至五箇年以内ニ於テ伸縮スルコトヲ得

第二條 水産學校本科ノ教授時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但シ實習時數ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第三條 水産學校本科ノ學科目ハ修身、國語、數學、地

理、物理、化學、博物、圖畫、法規及慣習、經濟、體操、並ニ實業ニ關スル學科目及實習トス但シ修身、實業ニ關スル學科目及實習ヲ除ク外本項ノ學科目ハ便宜之ヲ闕クコトヲ得

前項學科目ノ外歴史、外國語、簿記、唱歌及其ノ他ノ學科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ學科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 漁撈科 水産學大意、漁撈論、水産動物、水産植物、航海術、運用術、氣象及海洋學、船舶衛生及救急療法

一 製造科 水産學大意、製造論、水産動物、水産植物、細菌學大意、分析、機械學大意等

一 養殖科 水産學大意、養殖論、水産動物、水産植物、發生學大意等

漁撈、製造、養殖ノ三學科中二學科以上ノ學科目ヲ併セ授ケントスル學校ニ於テハ前項ノ學科目ニ就キ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 水産學校本科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限二箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第五條 水産學校ニ豫科ヲ置クコトヲ得

第六條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第七條 豫科ノ教授時數ハ每週三十時以内トス

第八條 豫科ノ學科目ハ修身、國語、算術、地理、歴史、理科、圖畫、體操トス但シ外國語、唱歌ヲ加フルコトヲ得

第九條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十條 水産學校ニ於テハ簡易ノ方法ニ依リ水産ニ關シ必要ナル事項ヲ教授スル爲ニ別科ヲ置キ又水産ニ關スル一事項若ハ數事項ヲ選修セシムル爲ニ選科生ヲ置クコトヲ得

第十一條 水産學校ニハ土地ノ情況ニ依リ別科ノミヲ置キ又ハ之ヲ分設スルコトヲ得

第十二條 別科ニ入學スル者ノ資格及選科生ノ入學資格ハ適宜之ヲ定ムヘシ

第十三條 (四十年文部省令第二號ヲ以テ本條削除)

第十四條 (同上)

第十五條 (三十六年文部省令第十七號ヲ以テ本條削除)

第十六條 (同上)

第十七條 (同上)

第十八條 (同上)

第十九條 (同上)

第二十條 (三十七年文部省令第七號ヲ以テ本條削除)

第二十一條 水産學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學校ノ目的

二 修業年限ニ關スル事項

三 教授日數ニ關スル事項

四 休業日ニ關スル事項

五 學科目及其ノ程度ニ關スル事項

六 各學科目毎週教授時數ニ關スル事項

七 入學退學ニ關スル事項

八 試験ニ關スル事項

九 賞罰ニ關スル事項

十 授業料等ニ關スル事項

十一 寄宿舎ニ關スル事項

第二十二條 水産學校ニ於テハ學科目教授時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クヘシ

第二十三條 水産學校ニ於テハ教室其ノ他必要ノ諸室ヲ備ヘ又學科ノ種類ニ應シ實習ノ爲ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十四條 水産學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、並ニ實習用諸機械等ヲ備フヘシ

第二十五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第二十六條 本令施行ノ際明治三十二年文部省令第九號ニ依リ設置シタル水産學校及農業學校水産科ニ現ニ在學スル生徒ニ關シテハ其卒業スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第二十七條 明治三十二年文部省令第九號第二十五條及第二十六條第一項中「及水産學校」ヲ削リ第二十六條第四項第四號ヲ削除ス

四十年文部省令第二十七號附則 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

水産學校本科ニ於ケル修業年限四箇年間ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●商業學校規則 (明治三十二年二月文部省令第十號)

第一條 商業學校ハ甲乙ノ二種トス (三十七年文部省令第十七號ヲ以テ第二項削除)

第二條 甲種商業學校ノ修業年限ハ三箇年トス但土地ノ

狀況ニヨリ二箇年以内延長スルコトヲ得 (三十六年文部省令第二十九號ヲ以テ但書改正)

第三條 甲種商業學校ノ授業時數ハ毎週三十三時以内トス

第四條 甲種商業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、地理、歴史、外國語、經濟、法規、簿記、商品、商事要項、商業實踐、體操トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

第五條 甲種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限二箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試験科目ニ加フルコトヲ得 (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第六條 乙種商業學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第七條 乙種商業學校ノ授業時數ハ毎週三十時以内トス

第八條 乙種商業學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、地理、簿記、商事要項、體操ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ但シ修身、簿記及ビ商事要項ハ之レヲ缺クコトヲ得

前項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得 (三十七年文部省令第六號ヲ以テ改正)

第九條 乙種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十條 甲種商業學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ毎週三十時以内トス

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、外國語、理科、圖畫、體操トス但本科ニ於テ理科及圖畫ヲ加設シタルトキハ之ヲ缺クコトヲ得

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ (四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十五條 (四十年文部省令第二號ヲ以テ本條削除)

第十六條 商業學校ハ或學科ヲ限リ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ設クルコトヲ得

第十七條 專修科ノ修業年限ハ二箇年以内トス (四十年文部省令第二號ヲ以テ條中改正)

第十八條 (三十七年文部省令第七號ヲ以テ削除)

第十九條 商業學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的 二 修業年限

三 授業日數 四 休業日
 五 學科目及其ノ程度 六 各學科目毎週授業時數
 七 入學退學ノ規程 八 試驗法
 九 賞罰ノ規程
 十 授業料規程(授業料ヲ徴收スル場合)
 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
 十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第二十條 商業學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第二十一條 商業學校ニ於テハ校地内若クハ其ノ附近ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第二十二條 商業學校ニ於テハ通常教室、特別教室、商業實踐室、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十三條 商業學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、商品見本、體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十四條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十五條 明治十七年文部省達第一號商業學校通則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

四十年文部省令第二十七號附則

本令ハ明治四十一年四月二日ヨリ施行ス

甲種商業學校ニ於ケル修業年限ハ四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

乙種商業學校ニ於テハ本令施行後三箇年間ニ限リ修業年限四箇年ノ尋常小學校ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

●商船學校規程 (明治三十二年二月文部省令第十一號)

第一條 商船學校ハ甲乙ノ二種トス (三十六年文部省令第十號ヲ以テ本條中第二項削除)

第二條 甲種商船學校ノ修業年限ハ三箇年以内トス但シ實習ヲ課スルトキハ相當ノ期間之レヲ延長スルコトヲ得

第三條 甲種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ毎週二十七日以内トシ但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 甲種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、地理、外國語、圖畫、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外化學、法規及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 航海科 運用術、航海術、機關術大意、海上氣象學大意、造船學大意等

一 機關科 機關術、機械製圖、力學、應用力學電氣學大意等

第五條 甲種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限二箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得(四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第六條 乙種商船學校ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第七條 乙種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ毎週二十七日以内トス但實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第八條 乙種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、體操並ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ又ハ便宜分合シテ定ムヘシ

一 航海科、運用術大意、航海術大意、海上氣象學大意等

一 機關科、機關術大意、機關製圖、物理、化學等

第九條 乙種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ(四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十條 甲種商船學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ毎週三十時以内トス

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歴史、理科、外國語、圖畫、體操トス

第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ(四十年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第十五條 商船學校ニ於テ從來ノ海員ニシテ技術免狀ヲ有スル者相當ノ海上若クハ工場履歷ヲ有スル者其他海事ニ關スル學科目ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置クコトヲ得

第十六條 (三十七年文部省令第七號ヲ以テ削除)

第十七條 商船學校ノ學則ハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 學校ノ目的 二 修業年限
 三 授業日數 四 休業日
 五 學科目及其程度 六 各學科目毎週授業時數
 七 入學退學ノ規程 八 試驗法 九 賞罰ノ規程

十 授業料規程(授業料ヲ徴收スル場合)
 十一 寄宿舎規程(寄宿舎ヲ設クル場合)
 十二 前各號ノ外學校管理上必要ノ事項

第十八條 商船學校ニ於テハ學科目、授業時數及學級ニ應シ相當ノ教員ヲ置クコトヲ要ス

第十九條 商船學校ニシテ校舍ヲ陸上ニ設置シタルトキハ其校地若クハ其附近ニ於テ繫留船舶ヲ以テ校舍ニ代用スルトキハ陸上ニ於テ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クルコトヲ要ス

第二十條 商船學校ニ於テハ通常教室、特別教室、實習場、其他必要ノ諸室ヲ備フルコトヲ要ス

第二十一條 商船學校ニ於テハ相當ノ教授用及參考用圖書、器具、機械、標本、模型、實習用端舟及諸機械、體操用器具等ヲ備フルコトヲ要ス

附 則

第二十二條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
 四十一年文部省令第二十七號附則
 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス
 甲種商船學校ニ於ケル修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ奉リタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
 乙種商船學校ニ於テハ本令施行後三箇年間ニ限リ修業年限四箇年ノ尋常小學校ヲ奉リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

トヲ得

●實業補習學校規程 (明治三十五年一月 文部省令第一號)

第一條 實業補習學校ニ於ケル教科目ノ修業期間及教授時數ハ土地ノ情況ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第二條 實業補習學校ニ於テハ土地ノ情況及職業ノ種類繁閑等ニ依リ生徒ノ修業ニ最モ便宜ナル時間及季節ヲ擇ヒ教授スヘシ

第三條 實業補習學校ノ教科目ハ修身、國語、算術及實業ニ關スル科目トス但シ修身ハ國語ニ附帶シテ教授スルコトヲ得

前項ノ教科目中國語、算術ハ之ヲ闕キ又ハ土地ノ情況ニ依リ他ノ教科目ヲ加フルコトヲ得

修身、國語、算術及前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨時科目ト爲スコトヲ得

國語ハ讀書、作文、習字ニ算術ハ筆算珠算ニ分チ生徒各自ノ志望ニ依リ其ノ一事項若ハ數事項ヲ教授スルコトヲ得

第四條 實業ニ關スル科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ選擇シ

又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ

一 工業ニ關シテハ物理、化學、圖畫、模型、幾何、製圖、圖案、力學、材料、工具、製作ノ類

二 農業ニ關シテハ物理、化學、博物、土壤、肥料、作物、耕耘、農具、病虫害、園藝、養蠶、家畜、造林、丈量ノ類

三 水産ニ關シテハ物理、化學、博物、地文、漁撈、製造、養殖、漁船運用ノ類

四 商業ニ關シテハ、商業算術、商業書信、商業事項、商品、商業地理、簿記、商業ニ關スル法令、外國語ノ類

前項ノ外或ル職業ノ爲メニ便宜其ノ科目ヲ定ムルコトヲ得

第五條 實業補習學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ尋常小學校ヲ卒業セサルモ就學ノ義務ナキ者ニ限リ特ニ入學セシムルコトヲ得 (四十一年文部省令第二十七號ヲ以テ條中改正)

第六條 實業補習學校ハ小學校、實業學校又ハ其ノ他ノ學校ニ附設スルコトヲ得

第七條 實業補習學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ

如シ

一 學校ノ目的

二 修業期間ニ關スル事項

三 教授ノ季節ニ關スル事項

四 休業日ニ關スル事項

五 教科目及其ノ程度ニ關スル事項

六 教科目ノ教授時間及時數ニ關スル事項

七 入學退學ニ關スル事項

八 授業料ニ關スル事項

第八條 實業補習學校ニ於テハ教科目、教授時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クヘシ

第九條 實業補習學校ノ教科目、修業期間、教授時數及季節ハ道廳府縣立ニアラサル公立學校ニアリテハ管理者、私立學校ニアリテハ設立者ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ但シ國庫ノ補助ヲ受クル學校ニ關シテハ此限ニ在ラス

第十條 實業補習學校ノ名稱ニハ補習學校ノ文字ヲ附スヘシ

附 則

第十一條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第十二條 明治二十七年文部省令第二十六號中「實業補習學校」ヲ削ル

(備考) 明治三十七年三月文部省令第八號
ノ條項ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

●徒弟學校規程 (明治三十七年三月文部省令第八號)

- 第一條 徒弟學校ハ職工タルニ必要ナル教育ヲ爲スチ目的トス
- 第二條 徒弟學校ノ修業年限ハ六箇月以上四箇年以下トス
- 第三條 徒弟學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ尋常小學校ヲ卒業セサルモ學齡ヲ過キタル者ニ限リ特ニ入學セシムルコトヲ得
- 第四條 徒弟學校ノ教科目ハ修身、職業ニ直接ノ關係アル教科目、實習、圖畫、數學、理科、國語、體操トス但シ修身ハ國語ニ附帶シテ之ヲ教授スルコトヲ得前項教科目ノ外便宜他ノ教科目ヲ加設スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得
- 第五條 徒弟學校ノ教科目ハ一種又ハ數種ノ職業ニ就キテ之ヲ定メ若ハ數種ノ職業ニ共通シテ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 徒弟學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ季節ヲ限リ

教授ヲ爲シ又ハ日曜日若ハ夜間ニ於テ教授時間ヲ設クルコトヲ得

- 第七條 徒弟學校ヲ卒業シタル者ニシテ既修ノ事項ヲ補習セントスル者アルトキハ之ヲ在學セシムルコトヲ得
- 第八條 現ニ職業ニ従事スル者ニシテ職業ニ關スル教科目又ハ實習ヲ修メントスル者アルトキハ特ニ之ヲ入學セシムルコトヲ得
- 第九條 徒弟學校ハ工業學校又ハ其ノ他ノ學校ニ附設スルコトヲ得
- 第十條 徒弟學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ
一 學校目的 二 修業年限ニ關スル事項 三 教授目數ニ關スル事項 四 休業日ニ關スル事項 五 教科目及其程度ニ關スル事項 六 各教科目毎週教授時數ニ關スル事項 七 入學退學ニ關スル事項 八 試験ニ關スル事項 九 賞罰ニ關スル事項 十 授業料等ニ關スル事項 十一 寄宿舎ニ關スル事項
- 第十一條 徒弟學校ニ於テハ教科目、教授時數及學級數ニ應シ相當ノ教員ヲ置クヘシ
- 第十二條 徒弟學校ニ於テハ教室其他必要ノ諸室ヲ備ヘ又實習ノ爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ但實習場ハ校内ニ設ケス便宜他ノ工場ヲ以テ之ヲ充ツルモ妨ケナシ
- 第十三條 女子ニ刺繡、機織及其ノ他ノ職業ヲ授クル爲

ニ設クル所ノ女子職業學校ニシテ此ノ規程ニ依ルモノハ徒弟學校ノ種類トス

附 則

- 第十四條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス
- 第十五條 明治二十七年文部省令第廿六號ハ之ヲ廢止ス

●實業教育費國庫補助法 (明治二十七年六月法律第二十一號)

- 第一條 實業教育ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス(三十二年法律第十八號及三十四年同第一號ヲ以テ改正)
- 第二條 公立ノ工業農業商業商船學校、徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ效益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ學校ニ補助金ヲ交付スヘシ
- 監督官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得(三十二年法律第十號ヲ以テ本條改正)
- 第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル
- 第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認可シタル學則ニ依リ及同大臣ノ定ムル必要ノ條件ヲ充タスモノニ限ル
- 第五條 此ノ法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年期間其ノ學校經費ヲ繼續支出スルノ義務アルモノトス

- 第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但シ文部大臣ニ於テ學校ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖補助ヲ廢止若ハ停止スルコトヲ得
- 第七條 第二條ニ掲クル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ八分ノ一以內ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得(同上)
- 第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

●實業教育費國庫補助法施行規則

(明治三十二年三月文部省令第二十號)

- 第一條 實業教育費國庫補助法ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ學校管理者ヨリ文部大臣ニ申請スヘシ但實業補習學校ニ在リテハ明治三十二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則第一條第一項各號ノ事項ヲ具スヘシ
- 第二條 補助ヲ受クル學校ノ收支豫算ハ毎會計年度前ニ

文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但年度内ニ追加豫算ヲ議決シタルトキハ其都度文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

收支決算ハ毎會計年度經過後府縣郡市町村會又ハ組合會ノ認定ヲ經タル上直ニ文部大臣ニ報告スヘシ

第三條 補助ヲ受クル實業補習學校ニ於テハ明治卅二年文部省令第十二號實業學校設置廢止規則第一條第一項第一號乃至第四號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十號ノ變更ハ文部大臣ニ開申シ第六號ノ變更ハ道廳府縣立ノ學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申シ其ノ他ノ學校ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲナシタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ(三十二年文部省令第六號同年同令第十六號ヲ以テ本條改正)

第四條 道廳府縣郡立ニアラサル學校ノ管理者ニ異動アルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第五條 道廳府縣立ニアラサル實業學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ凡テ地方長官ヲ經由スヘシ

第二條ノ申請書ヲ進達スル場合ニ於テ地方長官ハ精査ノ上詳細ナル意見ヲ付シ併セテ其地方實業ノ情況ヲ具申スヘシ

第六條 補助金交付ノ手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附 則

第七條 此規則ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第八章 專門學校 私立學校

●專門學校令 (明治三十六年三月勅令第六十一號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限リ專門學校ヲ設置スルコトヲ得但シ沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術、音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ設ケコ

トヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及ヒ其ノ程度並豫科、研究科及ヒ別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立專門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得

附 則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前條ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモノ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山、醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

(備考) 二十年勅令第四十八號ハ府縣立醫學學校ノ費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スルコトヲ得サルノ件ナリ

●公立私立專門學校規程 (明治三十六年文部省令第十三號)

第一條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 生徒定員

六 敷地建物ノ圖面及其ノ所有ノ區別

七 開校年月

八 經費及維持ノ方法

九 設立者ノ履歷

醫學專門學校ニ就キテハ臨床實習用病院ノ位置、敷地建物ノ圖面、臨床實習用患者ノ定員及解剖用屍體ノ豫定數ヲ具スヘシ

第一項第二項ノ敷地ニ關スル圖面ニハ面積地質及附近ノ狀況ヲ記シ且飲料水質ノ調査書ヲ添付スヘシ

第二項第一號乃至第七號及第二項ニ掲ケタル事項ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第八號ニ掲ケタル事項ノ變更ハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ヘシ

第二條 專門學校ハ校地、校舍、校具其ノ他必要ノ設備ヲ爲スヘシ

第三條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第四條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 教室

二 事務室

三 其ノ他必要ナル實驗室、實習室、研究室、圖書室、

器械室、標本室、藥品室、製煉室等ノ諸室」校舍ハ教授上管理上並衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第五條 校具ハ教授上必要ナル圖書、器械、器具、標本、模型等トス

第六條 專門學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フヘシ

一 學則、日課、教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書、出勤簿、擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類

四 試験ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿」

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由徴兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

別科ノ生徒ニ關シテハ出席簿、徴兵猶豫ニ關スル書類ヲ省略シ及學籍簿ノ記入事項ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 專門學校ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

一 學位ヲ有スル者

二 帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業生ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

四 文部大臣ノ認可シタル者

前項第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ一時他ノ者ヲ以テ教員ニ代用スルコトヲ得

前二項ニ依リ認可ヲ受ケントスル場合ニハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ奏薦ニ依リ任命セララルル者ニ就テハ別ニ認可ノ手續ヲ經ルコトヲ要セス

文部大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ場合ニ於テ學術ノ檢定ヲ行フコトアルヘシ

本條ニ依ル文部大臣ノ認可ハ當該學校在職中ニ限り有效トス

第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其ノ期間ハ三十日以内トス但シ學科課程相同シキ專門學校間ニ於ケル生徒ノ轉學ニハ本文ヲ適用セ

ス
專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ本科第一學年ニ入學スルコトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ學科課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者ト

ルヘシ學年級ヲ設ケサル專門學校ニ就キテモ亦之ニ準ス

前項入學者ノ學力ハ總テ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ
(三十八年文部省令第十三號ヲ以テ改正)

第九條 美術學校音樂學校ノ入學資格ハ中學校若ハ高等

女學校第三學年修了ノ程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上出席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上出席シタル者

第十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第十二條 專門學校ノ學制中ニ規定スヘキ事項凡ソ左ノ如シ

一 入學資格、修業年限、學科、學科目、學科程度ニ關スル事項

二 學年、學期、休業日ニ關スル事項

三 入學、退學、進級、卒業ニ關スル事項

四 懲戒ニ關スル事項

- 五 入學料、授業料等ニ關スル事項
- 六 豫料、研究料、別科ニ關スル事項
- 七 寄宿舎ニ關スル事項

第十三條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ廢止ノ認可ヲ受ケントスルモノハ其ノ理由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第十四條 專門學校令第十五條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルモノニ付テハ本令第一條ヲ準用ス

第十五條 實業專門學校ニ關シテハ特別ノ規定アル場合ニハ本令ヲ適用セス

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

明治十五年文部省達第四號、同第五號及同第六號中甲種藥學校ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

(參考) 十五年文部省達第四號ハ醫學學校通則、同年同第五號ハ府縣立醫學校設置ニ關シ具申事項又同年同第六號ハ藥學校通則ナリ

●私立學校令 (明治三十二年八月 勅令第三百五十九號)

第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス

第二條 私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可

ヲ受クヘシ

私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ

第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

本令中學校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者

五 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者

六 性行不良ト認ムヘキ者

第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ

命スルコトヲ得

一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲ササルトキ

四 第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令ノ規定ニ依リシムヘシ

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲ササル者及第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者並第

十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得スシテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ニ依リ認可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學校又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス

前項ノ認可ハ當該學校在職間有效ノモノトス

第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ

第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得

第八條 私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

附則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教員タルト欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セス

私立學校令施行規則 (明治三十二年八月 文部省令第三十八號)

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舎、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

一 目的

二 名稱

三 位置

四 學則

五 經費及維持方法

前項第一號乃至第三號及校地、校舎、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申シ第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項

二 學科課程、授業時間ニ關スル事項

三 試験ニ關スル事項

四 入學退學ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 賞罰ニ關スル事項

七 寄宿舎ニ關スル事項

八 職員ノ職務ニ關スル事項

第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ教員タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ

第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試験ハ小學校

盲聾學校及小學校ニ類スル各種學校教員ニ在リテハ小學校教員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲシテ之ヲ行ハシム

第五條 私立學校ハ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第六條 明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第九章 教員

教員免許令 (明治三十三年三月 勅令第三百三十四號)

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非ザレハ教員タルコトヲ得ズ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試験檢定及無試験檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ズ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シ

タルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學校卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

●教員檢定ニ關スル規程(明治三十三年六月) (文部省令第十號)

第二條 教員檢定ハ受檢人ノ學力、品行、身體ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ但シ法制及經濟ノ試験檢定ハ修身若ハ教育ノ免許狀ヲ有スル者ノ外修身若ハ教育ヲ併セテ出願スルニアラサレハ之ヲ行ハス此場合ニ於テハ其ノ手数料ニ關シテハ之ヲ一學科目ト

看做ス (三十四年文部省令第十二號ヲ以テ全條改正三十六年同令第六號ヲ以テ但書追加)

修 身 教 育	國語及漢文	英 語
佛 語	獨 語	歷 史
數 學	物理及化學	博 物
習 字	圖 畫	家 事 裁 縫
音 樂	簿 記	農 業
手 工	手 藝	商 業

歷史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何三角法、解析幾何、微分積分ノ三部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、礦物ノ三部ニ分テ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス (四十年文部省令第十三號ヲ以テ更ニ本項改正)

解析幾何ハ算術代數幾何三角法ニ微分積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス (同上ヲ以テ本項改正)

第三條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施設

行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書(一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(二號書式)及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫

二 學校醫ノ身體檢查書(三號書式)但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢查書ヲ以テスルモ妨ケナシ

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受ケルコトヲ得 (三十六年文部省令第二號及四十一年同令第六號ヲ以テ改正)

一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業生及選科修了者

二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ

卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者 (四十二年文部省令第六號ヲ以テ第五號刪除)

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受ケルコトヲ得

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

五 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

六 明治四十二年二月以前ニ於テ教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者 (同上ヲ以テ本條第四十號ヲ以テ改正)

一年月日何々ニヨリ何免許状ヲ受ク 免許状寫別紙ノ通
業務
一年月日何官職拜命或ハ何業ニ従事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現
今在職從事等
賞罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付キ何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク
右之通相違無之候也
年月日 右 何 某 印

第三號書式 (用紙美濃紙能載方ハ別記身體検査書能載方心得ニ依
ルヘシ)

身體検査書

一 體格
一 身長
一 體重
一 胸圍
一 中心視力
一 色盲
一 眼病
一 聽力
一 耳疾
一 呼吸器
一 神經系
一 皮膚病
一 言語
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也

年月日検査

住所

學位若ハ何

何學校醫

某 印

別記

身體検査所能載方心得
一 検査ノ表記及身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部
省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ
一 體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其身長(種)
ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ
指ス
中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(種)ヲ以テ
體重(種)ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(種)ヲ以
テ體重(種)ヲ除シタル商〇、二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱
彎曲、扁平胸、狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾
患アル者ヲ指ス
一 中心視力ハスネルン氏ノ試視力表ニ依リテ其記載方ハ〇ト記
スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ
明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
一 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
一 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
一 神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
一 皮膚ハ主トシテ傳染病皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現
ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲ記載スヘシ
一 言語ハ明瞭、吃、嘔聲等ヲ記載スヘシ
一 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ胸病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ會患、
肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

●教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教

員ニ充ツルコトヲ得ルノ件

(明治三十三年九月
文部省令第十五號)

第一條 師範學校、中學校ニ於テ教員免許狀ヲ有スル者
ヲ得難キ場合及高等女學校ニ於テ教員免許狀又ハ第二
條ノ資格ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニハ教員免許狀ヲ有
セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得
第二條 高等女學校ニ於テ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セ
シムル爲小學校本科正教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用ス
ルコトヲ得
第三條 第一條ニ依リ採用シタル教員ハ公立學校ニ在リ
テハ教諭助教諭又ハ訓導ト稱スルコトヲ得ス
第四條 中學校高等女學校ニ於テ新ニ採用セントスル者
ヲ加算シ教員免許狀ヲ有セサル者ノ數教員免許狀ヲ有
スル者ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニハ文部大臣ノ認可
ヲ受クルコトヲ要ス(三十八年文部省令第一號及四十
二年同令第廿號ヲ以テ本項改正)
前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ公立學校
ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ
本人ノ氏名、履歷及分擔學科並當該學校現在教員ノ氏
名及資格ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第五條 第一條ニ掲ケタル學校及特別ノ規定アル學校ヲ
除ク外公立學校ニ於テハ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以
テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

第六條 本令ハ明治三十三年九月十日ヨリ施行ス
第七條 本令施行ノ際教員免許狀ヲ有セスシテ第一條ノ
學校ノ教授ニ從事スル者ハ本令ノ規定ニ依リ採用セラ
レタル者ト看做ス
第八條 明治三十年文部省令第十九號第七條明治三十二
年文部省令第二十二號同第四十三號ハ本令施行ノ日ヨ
リ廢止ス

●公立學校職員俸給令 (明治三十六年三月
勅令第六十六號)

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、師
範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ
奏任文官又判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
第二條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業
專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學
校、高等女學校及實業學校(實業專門學校ヲ除ク)ノ職
員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第四條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル

第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本條三分ノ一以上ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼スル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ職員ヲ兼スル者ニハ其俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其間俸給ヲ支給セス但シ其俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ給スルコトヲ得
(廿七年勅令第六號ヲ以テ海軍給與令發布海軍々人俸給令廢止)

第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得但シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸拾五圓以下ノ者ハ此限ニ在ラス

第十二條 名稱又待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナ

リタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

前項ノ規定ハ年俸六百圓以下又月俸四拾圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

第十三條 退職後一年以内ニ再任セラルル場合ニ於テハ其俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ年俸六百圓以下又月俸四拾圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス

退職後一年以内ニ名稱又待遇ノ異ナリタル職員若クハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セラルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス

第十五條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタル場合ニハ俸給ノ一部、其他特別ノ事情アル場合ニハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
(三十七年勅令第五十三號ヲ以テ但書改正)

第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 高等官官等俸給令第十三條乃至第十八條ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第五條及第六條ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 俸給支給ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

第一號表

學	校	長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
教	監	長	參千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓
會	監	長	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓	貳千圓

第二號表

學	校	長	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
教	監	長	千八百圓	千八百圓	千六百圓	千五百圓	千四百圓	千四百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓	千三百圓

附 則

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸給ヲ受ケ

現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其者ノ取扱ニ關シテ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

第三號表

師範學校	專門學校	實業專門學校	中學校		高等女學校		實業學校		實業專門學校	
			書記	助教諭	書記	助教諭	書記	助教諭	書記	助教諭
一級	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓	七拾五圓
二級	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓	七拾四圓
三級	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓	六拾五圓
四級	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓	六拾四圓
五級	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓	五拾五圓
六級	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓	五拾四圓
七級	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓	四拾五圓
八級	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓	四拾四圓
九級	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓	四拾三圓
十級	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓	四拾二圓
十一級	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓	四拾一圓
十二級	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓	四拾圓
十三級	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓	三拾九圓

學校長又ハ教諭ニシテ十一級俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

●市村立小學校教員俸給令 (明治三十年一月勅令第二號)

第一條 市町村村立小學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ
地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村村立小學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ
義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減少スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十四圓、其ノ他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ二十圓、其ノ他ノ町村ニ在リテハ十六圓トス

前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム (四十年勅令第二百十六號ヲ以テ本條改正)

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス
第五條 專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ開キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定リタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ開クノ限ニアラス
第六條 本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス

高等小學校	本科正教員		准教員
	男	女	
高等小學校	十圓	十圓	九圓
尋常小學校	十圓	十圓	七圓
	八圓	八圓	六圓

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

(四十年勅令第二百十六號ヲ以テ本條改正)

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準ズヘキ者ニ適用ス

本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要アルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準ズヘキ者之ヲ行フ

附則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

●市町村立小學校教員加俸令

(明治三十三年三月勅令第三百三十三號)

第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得
第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤績シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認めタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤績年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルヲ得

第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤績年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤績年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認めタルトキハ年功加俸ヲ支給セズ

第七條 市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多級學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認めタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十條 本令ハ明治卅三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤績スル間其差額ヲ支給ス

●小學校教育成績狀規程

(明治三十八年六月文部省令第十一號)

第一條 小學校教員ニシテ其ノ成績顯著ナル者ハ文部大臣之ヲ選獎ス

市町村長、町村學校組合長其ノ他市町村若ハ之ニ準ズヘキモノノ吏員又ハ學務委員ニシテ小學校ノ教育ニ關シ成績顯著ナル者ハ亦之ヲ選獎スルコトアルヘシ

第二條 前條ノ選獎ハ教育成績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第三條 小學校教員ニシテ小學校令第四十九條ニ依リ其ノ有スル免許狀效力ヲ失ヒ若ハ免許狀ヲ褫奪セラレタ

ルトキハ教育成績狀ヲ返納セシメ官報ヲ以テ之ヲ公示ス其ノ他ノ者ニシテ公權ヲ剝奪セラレタルトキ亦同シ

第四條 第一條ノ成績ヲ審査スル爲文部省内ニ委員ヲ置ク

第十章 學校衛生

●公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件

(明治三十一年一月勅令第二號)

第一條 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク

地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未滿ノ町立學校ニハ當分ノ內學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス

第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應ジテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得

第四條 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ

第五條 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ町立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス

職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者、屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタル後ニアラサレハ昇校スルコトヲ得ス

第五條 教員舎監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病者若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スヘシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスヘシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一部ヲ閉鎖スヘシ (三十二年文部省令第四十四號ヲ以テ條中改正)

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スヘシ但第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使

用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フヘシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四時間以内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ツヘシ

第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舎室ハ再ヒ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スヘシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スヘシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スヘシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圓房其他障壁、牀、疊、建具、寢臺、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物

ハ生石灰ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルヘシ

三 食器、被服、寢具等ハ煮沸又ハ蒸汽消毒ニ附スヘシ

四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スヘシ

五 前各號ノ消毒ニ適セサルモノハ「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルカ又ハ刷掃シテ數日間日光ニ曝スヘシ (三十九年文部省令第十一號ヲ以テ條中改正)

第十一條 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ
一 石炭酸水 (二十倍) (結晶石炭酸五分鹽酸一分水九十分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ)

本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ

二 生石灰末 (生石灰ニ少量ノ水ヲ灌キ崩壞セシメタルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ)

本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳 (十倍) (生石灰一分ニ水九分ヲ攪拌混和シタルモノ)

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ四分ノ一以上ヲ用フ

(三十九年文部省令第十一號ヲ以テ本條ノ項削除)

三 格魯兒石灰水 (二十倍) (格魯兒石灰五分ニ水九十分ヲ攪拌混和セルモノ)

格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

四 「フオルムアルデヒド」

「フオルムアルデヒド」ニ依リ消毒スルニハ消毒面又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付日本藥局方「フオルマリン」四十瓦以上ヲ噴霧スルカ又ハ適當ノ裝置ニ依リ「フオルムアルデヒド」瓦斯十五瓦以上ヲ發生セシメ同時ニ約百瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ但シ消毒面又ハ室ハ使用前約十二時間寒冷ニ保持スルコトヲ要ス若シ室ニ隙隙アルトキハ昇液液中ニ浸漬セル綿ヲ以テ之ヲ栓塞スヘシ (三十九年文部省令第十一號ヲ以テ本條追加)

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

附 則

●學校清潔方法 (明治三十年一月文部省訓令第一號)

清潔方法ヲ分チテ日常清潔法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一、教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戸ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 一、教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下ニ放下セシムヘカラス
- 紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三、寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用キル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 四、靴ノ塵昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ
- 五、寝具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寝衣等

ハ務メテ洗濯セシムヘシ

- 六、便所ノ尿溝及注壁等ハ毎日一回水ヲ以テ洗ヒ圓房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ樋箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ
- 七、糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿俺加里、粗製格魯兒滿俺(以上百倍乃至二百倍)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラス汲ミ取ラシムヘシ
- 八、食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戸ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ毎食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食卓等ヲ拭フヘシ
- 九、芥菜場ノ不潔物ハ期ヲ愆ラス搬送セシムヘシ
- 十、下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ
- 十一、庭園、體操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ
- 乙 定期清潔方法
- 定期清潔方法ハ每年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス
- 十二、先ツ教室寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚

等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剝キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汁若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ

- 十三、簷下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及齧廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十四、寢具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカラサルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五、器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス
- 室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ
- 十六、牀板、壁面等ニ罅隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ
- 十七、浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥菜場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ
- 丙 浸水後清潔方法
- 洪水ノ爲メ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ

施行スヘシ

- 十八、水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用キテ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 十九、建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 二十、浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚滌シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ
- 二十一、右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

●學生生徒身體檢查規程 (明治三十三年三月)

- 第一條 學生生徒ノ身體檢查ハ每年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ (三十七年文部省令第十八號ヲ以テ改正)
- 學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得
- 第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學

關スル規定ヲ準用ス

附則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第十一章 圖書館

●圖書館令 (明治三十二年十一月廿九號第四百二十九號)

第一條 北海道府縣郡市町村(北海道及沖繩縣ノ區域ニ在リテ)ニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閱覽ニ供センカ爲メ圖書館ヲ設置スルコトヲ得

第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス

第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得

第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得

第五條 圖書ノ設置廢止ハ其ノ公立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 公立圖書館ニ館長、司書及書記ヲ置クコトヲ得 館長及司書ハ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受

ケ書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク (三十九年勅令第二百七十四號ヲ以テ改正)

第六條ノ二 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二 學位ヲ有シ又ハ官立學校ヲ卒業シ學士ノ稱號ヲ有スル者ニシテ一年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シタル者

三 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シ月額四十圓以上ノ俸給ヲ受クル判任文官以上又ハ判任文官待遇以上ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者 (同上ヲ以テ追加)

第六條ノ三 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長、司書及書記ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シタル者 (同上)

第六條ノ四 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ任免奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長、司書及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ (同上)

第六條ノ五 館長又ハ司書ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等配當ハ明治二十五年勅令第三十九號

中奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル中學校教諭ノ例ニ依リ館長、司書又ハ書記ニシテ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ等級配當ハ同令中學校助教諭ノ例ニ依ル (同上)

第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附則

第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

●圖書館ニ關スル規程 (明治三十九年十二月文部省令第十九號)

第一條 圖書館令第五條ニ依リ公立圖書館ヲ設置セントスルトキハ管理者ヨリ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 經費及維持ノ方法
- 四 敷地建物ノ坪數及圖面
- 五 開館年月日
- 六 館則

私立圖書館ニ在リテハ前項ノ事項ヲ設立者ヨリ文部大臣ニ開申スヘシ

第二條 圖書館ノ名稱、位置、敷地、建物又ハ館則ノ變更ハ其ノ都度文部大臣ニ開申スヘシ

第三條 公立圖書館ノ經費豫算ハ毎會計年度開始前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

●公立圖書館ノ俸給ニ關スル件

(明治三十九年十一月勅令第二百八十二號)

公立圖書館職員ノ俸給ニ關シテハ公立學校職員俸給令ヲ準用ス但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ年俸ハ同令第二號表中教諭ノ例ニ依リ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ月俸ハ同令第三號表中中學校教諭ノ例、書記ノ月俸ハ同表中中學校書記ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

現ニ公立學校職員俸給令ニ規定スル俸給額ニ相當ヒサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

第十三類 衛生

第一章 傳染病

- 傳染病豫防法……………一
- 傳染病豫防法施行規則……………六
- 傳染病豫防法ニ據ル清潔方法消毒方法……………九
- 傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件……………四
- 傳染病豫防法第廿四條補助ニ關スル件……………四
- 檢疫委員設置規則……………五
- 市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準……………六
- 「ペスト」菌取扱取締規則……………七
- 家鼠驅除方……………九
- 肺結核豫防ニ關スル件……………九

- 癩豫防ニ關スル件……………一〇
- 癩豫防ニ關スル施行規則……………三
- 癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨追徴及負擔ニ關スル件……………三

第二章 種痘

- 種痘規則……………四
- 種痘施術心得書……………五
- 秋季種痘施行ノ件……………六

第三章 醫術 藥業並藥品

- 醫師法……………九
- 醫師法施行規則……………一〇
- 醫師會規則……………一三
- 齒科醫師法……………一五
- 齒科醫師法施行規則……………一六
- 齒科醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件……………一六

●齒科醫師會ニ醫師會規則ヲ適用スル件……………三

●醫術開業試驗規則……………四

●醫術開業受驗人心得……………四

●產婆規則……………四

●產婆試驗規則……………四

●藥品營業並藥品取扱規則……………四

●毒藥劇藥品目……………五

●賣藥規則……………五

●賣藥規則取扱手續書及書式……………五

●第四章 飲食物取締……………五

●飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件……………五

●飲食物其他ノ物品取締法律施行ニ關スル件……………五

●飲食物用具取締規則……………六

●飲食物防腐劑取締規則……………六

●牛乳營業取締規則……………三

●第五章 雜則……………三

●汚物掃除法……………三

●汚物掃除法施行規則……………三

●未成年者喫煙禁止法……………六

第十三類 衛生

第一章 傳染病

●傳染病豫防法

(明治三十年三月法律第三十六號)

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸瘻、痲疹、發疹、癩、猩紅熱、實布、埃利亞、格魯布ヲ含ム。及「ベスト」ヲ謂フ。

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス。

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得。

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハソノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ。

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ

其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戸長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ。

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戸主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス。

第五條 傳染病患者アリタル家其他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ。(廿八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ。(廿八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其他傳染病ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得。(三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ル

第十三類 衛生

第一章 傳染病

●傳染病豫防法

(明治三十年三月法律第三十六號)

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、發疹窒扶斯、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布ヲ含ム)及「ベスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル八病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ疑似症ニ對シ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ (卅八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシムヘシ (卅八年三月法律第五十六號ヲ以テ第二項ヲ削ル)

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其他傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得 (三十八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

ニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス
第十條 傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス
傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラヌ
傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得但シ公共ノ工事ノ爲必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラヌ

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長管理人又ハ代理人ニ告知シ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證據ヲ示スヘシ(同上改正)

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第六十一條市町村制第六十五條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラヌ

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二 市町村ハ地方高官ノ指示ニ從ヒ鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スベシ(廿八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ
傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用用水ノ供給ヲ爲ス可シ(廿八年三月法律第五十六號ヲ以テ本項追加)

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車ノ乘客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療シメ及病毒感染ノ疑アルモノヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車中ニ傳染病患者若クハ病毒感染ノ疑アルモノアリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監入出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アルモノアリタルトキ亦同シ(同上改正)

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車ノ檢疫ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ

左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得 同上改正

一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト
二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷又ハ人民ヲ隔離スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト
四 古著、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ヲ廢棄スルコト

五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ之ヲ廢棄スルコト
六 汽車船舶製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七 清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、廁圍ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト
八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九 鼠族ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト
第十九條ノ二 傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町

村會ノ意見ヲ聽キ内務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ手當金ノ交付並手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(卅八年三月法律第五十六號ヲ以テ追加)

第二十条條 諸官廳、集治監及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防方法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
一 豫防委員ニ關スル諸費
二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法消毒方法及種痘ニ關スル諸費
三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六 第八條ニ依レル交通遮斷隔離ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九 第七條ノ二ニ依レル家用ノ供給ニ關スル諸費

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金(同上追加)

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
一 第十八條ニ關スル諸費

二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷隔離ニ關スル諸費
交通遮斷隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費(同上改正)

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ

履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ市縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ第二十二條第二十四條ノ府縣稅又ハ地方稅ノ支出ニ對シ其ノ六分ノ一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必

要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣稅又ハ地方稅ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若クハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ五圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條第五條第九條第十條第十一條第一項第十二條ニ違背シタル者交通遮斷ヲ犯シタル者當該吏員ノ尋問ニ對シ答ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其届出ヲ妨ケタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(卅八年三月法律第五十六號ヲ以テ改正)

附則
第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキ

モノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法施行規則

(明治三十年五月內務省令第十一號)

第一條 警視總監府縣知事ハ其ノ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキ及傳染病豫防法第一條ニ掲クル八病ノ外同法ニヨリ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シテ速ニ內務大臣ニ申報ス

スヘシ但前段ノ場合ニ於テハ隣接若クハ船舶汽車交通ノ地ノ警視廳府縣廳最寄兵營及最寄港灣ニ碇泊ノ軍艦等ニ通報スヘシ
第二條 市町村長(沖繩縣ノ區長以下之ニ做フ)戶長(戶長ニ準スヘキ者ヲ含ム以下之ニ做フ)又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通報シ且警察官吏ニ通報スヘシ但町村長又ハ戶長ニ於テ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ郡役所島廳ニ報告シ郡長市長島司又ハ區長ハ府縣廳ニ報告スヘシ
市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第四條ノ届出又ハ通報ヲ受ケタルトキハ直ニ醫師ヲシテ診斷セシ傳染病ナルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
第三條 警察官吏又ハ檢疫委員傳染病豫防法第三條又ハ第四條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者死者其他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ニ通報スヘシ
但警察署長又ハ分署長ヨリ府縣廳(東京府ハ警視廳)ニ報告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷セシムルコトヲ得(三十八年六月內務省令第十四號ヲ以テ改正)
第四條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ傳染病患者死

者其ノ他病毒汚染ノ事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ傳染病患者死者アリタル家其他病毒ニ汚染シ若クハ

疑アル家ニ清潔方法消毒方法ヲ施行セシメ「ベスト」病ナルトキハ特ニ鼠族ノ驅除ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ

第五條 市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病患者ヲ傳染病院又ハ隔離病舎又ハ相當ノ設備アル病院ニ入ラシメ健康者ヲ隔離所ニ入ラシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戶長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ從事スヘシ(同上改正)

第六條 警察官吏又ハ檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ虎列刺、赤痢、發疹室扶斯「ベスト」ニ對シ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得
一 患者又ハ死體アル間及患者ヲ入院若クハ入舎セシメ又ハ患者治癒若クハ死亡シタル後消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト
二 前項ノ外病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ハ消毒方法ノ施行ヲ了ルマテ交通ヲ遮斷スルコト
三 前二號ノ家ノ居住者其他病毒感染ノ疑アル者ヲ消

毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ左ノ日時間隔離所若クハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト
虎列刺、赤痢 滿五日間
發疹室扶斯 滿七日間
「ベスト」 滿十日間
四 交通遮斷又ハ隔離中ニ新ニ患者ヲ發シタルトキハ更ニ本條ニ依リテ處置スルコト
傳染病豫防法第十九條第二ニ依ル交通遮斷及隔離ノ施行ハ警察官吏又ハ檢疫委員ニ於テ前項ニ準シ之ヲ行フヘシ但特ニ府縣知事(東京府ハ警視總監)ノ命アル場合ニ限ル
市町村長區長戶長又ハ豫防委員ハ警察官吏又ハ檢疫委員ヲ指示ヲ受ケテ本條ノ交通遮斷及隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ(同上改正)
第七條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏市町村長區長戶長檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ但第一ノ場合ニ於テハ認可ヲ爲シタル吏員ヨリ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ吏員ニ通報スヘシ
一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サントスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用授與移轉遺棄又ハ洗滌セシムルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セントスルトキ

第八條 傳染病豫防法第九條第十條及第十一條第一項ノ場合ニ於テハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ充分消毒方法ヲ施行セシムヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ従事スヘシ

第九條 傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘク日没後日没前ニ於テスヘシ其ノ戸主首長管理人等ニ示スヘキ證ハ左ノ如シ

表凡	凡三寸
木札	傳染病豫防吏員之證
又ハ	
厚紙	
裹	
面	官廳公署印

第十條 府縣知事(東京府ハ警視總監)ハ市町村ノ醫師ヲ

シテ傳染病豫防法第十九條第一ノ健康診断及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得(三十八年六月内務省第十四號改正)

第十一條 府縣知事(東京府ハ警視總監)傳染病豫防法第十九條第七ニ依リ清潔方法消毒方法等ノ施行ヲ命シタルトキハ第四條ノ規程ヲ準用ス

第十二條 市町村立ノ傳染病院隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費藥價ヲ徵收スルコトヲ得其ノ金額ハ市ニ在テハ府縣知事町村ニ在テハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市町村長區長戸長又ハ豫防委員ハ傳染病豫防法第二十六條ニ依リ清潔方法消毒方法ヲ施行スヘシ但警察官吏衛生官吏郡吏員島廳吏員又ハ檢疫委員ハ市町村長區長戸長又ハ豫防委員ヲ指示シテ其ノ事務ニ従事スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村ハ必要ナル人夫器具藥品等ヲ供給シ又ハ其ノ費用ヲ支出スヘシ

第十四條 府縣知事ハ衛生組合ヲシテ消毒器具藥品等ヲ設備セシムルコトヲ得

第十五條 傳染病豫防法第二條第十八條(第三項但書ノ場合ヲ除ク)及第十九條ノ地方長官ノ職務其ノ他傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ警察ニ關スル事項

ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ市長ニ屬スル職務ハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第十六條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十七條 傳染病豫防法又ハ此ノ規則ノ施行ニ關シ必要ナル細目ハ警視總監府縣知事之ヲ定ム

島地ニ關シ此ノ規則ノ規程ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ警視總監府縣知事ハ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

●傳染病豫防法ニ據ル清潔方法、消毒方法

(明治三十年五月内務省令第十三號)

第一條 清潔方法ノ要項左ノ如シ

- 一 傳染病患者アリタル家ニ於テハ殊ニ患者ノ居室其ノ他病毒汚染ノ疑アル場所ニ注意シ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後掃除ヲ行ヒ其ノ塵芥ハ之ヲ焼却スヘシ
- 二 家屋掃除ノ際床下ノ塵芥其ノ他不潔物ハ之ヲ取除ケテ燒却スヘシ

三 傳染病患者アリタル家ノ井戸流、臺所流、便所又ハ芥溜ノ掃除ヲ要スルトキハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ行フヘシ但必要ノ場合ニハ修理改造及井戸浚ヲ爲スヘシ

四 「ベスト」ニ對シテハ前各號ノ外屋根裏、天井、羽目板間、床下等ニ就テ鼠族ノ搜索驅除ヲ行フヘシ

五 傳染病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル場合亦前各號ヲ準用スヘシ (廿八年六月内務省令第十七號ヲ以テ改正)

第二條 傳染病流行ニ際シ溝渠ヲ攪拌スルハ却テ病毒蔓延ノ媒介ヲ爲スノ虞ナシトセス必要ノ場合ニハ消毒藥(生石灰末若クハ石灰)ヲ投シタル後浚滌スヘシ

第三條 傳染病ノ流行前又ハ流行後ニ於テ清潔方法ヲ行ヒ家宅ノ掃除溝渠ノ浚滌ヲ爲ス場合ニ於テハ濫リニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

第四條 溝渠ヲ浚ヘタル汚泥塵芥ハ直ニ一定ノ運搬器ニ入レ健康上有害ナラサル様一定ノ場所ニ棄ツヘシ汚泥ヲ路傍ニ散逸セシメ又ハ之ヲ堆積スヘカラス

第二章 消毒方法

第五條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却

二、蒸汽消毒

三、煮沸消毒

四、藥物消毒

第六條 燒却ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 傳染病患者若クハ死體ニ用ヒタル被服、臥具、布片、便器其ノ他ノ器具等ニシテ甚シク病毒ニ汚染シ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ
- 二 傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他ノ排泄物及塵芥動物ノ死體等(同上改正)

第七條 蒸汽消毒ニ適スルモノハ左ノ如シ

- 一 衣服、臥具、布片等總テ絹布、綿布、麻布、毛織物類
- 二 硝子器、陶器、磁器其ノ他鑄製若クハ木製品等ニシテ汽熱ニ堪フルモノ

第八條 蒸汽消毒ヲ施行スルトキハ左ノ各項ニ注意スルヲ要ス

- 一 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、護謨附品、糊附品、膠附品、毛皮、象牙、鼈甲、角ノ類ハ物品ヲ損スルヲ以テ蒸汽消毒ヲ避クヘシ
- 二 被服類ニ蒸汽消毒ヲ施スニハ豫メ袖中又ハ衣囊中ヲ檢索シ若シ彈丸、火藥等爆發又ハ發火シ易キ物品

アルトキハ之ヲ取出スヘシ又消毒中他物ニ染色ノ恐アルモノ等ハ蒸汽消毒ヲ避クヘシ

三 蒸汽消毒ハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルヘク消毒器中ノ空氣ヲ驅逐シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第九條 煮沸消毒ニ適スルモノハ蒸汽消毒ニ適スルモノニ同シ

煮沸消毒ハ消毒スヘキ物品ヲ全部水中ニ浸シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ(同上改正)

第十條 藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ
一 石炭酸水(二十倍)(結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分)

石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但使用ノ際ハ毎回振盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ各種物件ノ消毒ニ適ス但使用ノ際ハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

- 一 吐瀉物其ノ他排泄物ニハ同容量ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ
- 二 器具室内等ヲ消毒スルニハ擦拭又ハ撤布スヘシ

三 手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

四 衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘタルモノヲ用ヒ六時間以上浸漬シ其ノ後淨水ヲ以テ更ニ洗滌スヘシ

一ノ二 「クレゾール」水「クレゾール」石鹼液六分九十四分「クレゾール」水ヲ製スルニハ「クレゾール」石鹼液六分ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「クレゾール」水ハ各種物件ノ消毒ニ適シ其ノ用量及應用ハ石炭酸水ニ準スヘシ

二 昇汞水(千倍)(昇汞一分、鹽酸十分、水九百八十九分)

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ

昇汞水ハ極毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ速キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ニ注意ヲ加ヘ又其ノ危險ヲ防カン爲メ「スカレット」又ハ「ゾイレフクシン」其他適當ノ色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス但金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス昇汞水ハ陶器、硝子器、木製器具又ハ室内ノ消毒ニ適ス飲食用器具玩具ノ消毒飲料水ニ滲透スヘキ場所

ノ消毒及金屬製品、糞便、吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス

手足等ヲ消毒スルニハ洗滌シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗淨スヘシ

三 生石灰(少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シテ崩壞スルモノ)

生石灰(生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ)

生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ吐瀉物其ノ他ノ排泄物、溝渠等ノ消毒ニ用フヘシ吐瀉物其ノ他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ少クモ其ノ容量五十分一ヲ投シ能ク攪拌スヘシ

石灰乳(十倍)(生石灰一分、水九分)

石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ能ク攪拌スヘシ其ノ用量ハ吐瀉物其ノ他排泄物等ノ容量四分ノ一以上トス但石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ニハ毎回攪拌スルヲ要ス

普通石灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り代用トシテ其ノ倍量ヲ用フヘシ

木灰ハ生石灰等ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物赤痢病患者腸瘻扶私病患者ノ

排泄物ノ消毒ニ代用スルコトヲ得其ノ用量ハ吐瀉物
排泄物ノ五分一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一
分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其ノ用量ハ
吐瀉物排泄物ノ同容量トス但石炭灰藁灰ハ木灰ト同
一ノ效ナシトス

四 格魯兒石灰水(二十倍)格魯兒石灰五分、水九十五
分) 格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但シ用ニ
臨ミテ製スヘシ

五 加里石鹼又ハ綠石鹼
加里石鹼又ハ綠石鹼三分ヲ熱湯百分ニ溶解シ使用ノ
際ニハ加熱スルヲ要ス

六 「フォルムアルデヒド」
「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發
生セシメ又ハ適當ノ装置ニ依リテ之ヲ發生セシムヘシ
「フォルムアルデヒド」ヲ使用セントスル際ハ左ノ
諸件ニ注意スヘシ

一 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒室内又ハ土藏造、洋風
建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ

酸水ニ浸漬シタル布ヲ以テ包ミ又ハ石灰ヲ以テ填ツ
ヘシ

第三 看病人、病家ノ家人其ノ他病者ニ觸接シタル者
看病人、病家ノ家人其ノ他消毒方法ノ施行又ハ患者
死體、排泄物ノ運搬等ノ爲病者ニ觸接シタル者ハ時
時若クハ其ノ都度手足及衣服ヲ消毒シ入浴スヘシ

第四 患者、死體等ノ運搬器
傳染病ノ患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠釣臺ノ類ハ
使用後毎回昇汞水若クハ石炭酸水ヲ以テ擦拭スヘシ

第五 便所、芥溜、溝渠等
傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ノ入りタル便所ノ
糞池、肥料溜等ニハ生石灰末、石灰乳若クハ格魯兒
石灰水ヲ灌キ能ク攪拌スヘシ但便所ハ石炭酸水ヲ以
テ消毒シタル後直ニ使用シ糞便ハ一週間ノ後肥料ニ
供セシムルコトヲ得

病者ニ汚染シタル土地ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰
水ヲ灌キ消毒スヘシ
病者ノ混入シタル芥溜ニハ石灰乳若クハ格魯兒石灰
水ヲ灌キ其ノ塵芥ヲ焼却スヘシ
病者ノ混入シタル溝渠ニハ生石灰末、石灰乳若クハ
格魯兒石灰水ヲ灌クヘシ

得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカス

二 消毒室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルムアリ
ン」四十瓦以上ヲ噴霧センメ若クハ「フォルムアル
デヒド」瓦斯十五瓦以上發生センメ同時ニ約百
瓦以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタ
ル後七時間以上密閉シ置クヘシ

「フォルムアルデヒド」ハ左ノ消毒ニ用キルコトヲ得
一 土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ノ密閉シ得ル
室内又ハ室内ニ定著セル器物等ニシテ他ノ消毒方
法ヲ行フコト能ハサルモノ

二 他ノ消毒方法ヲ行フコト能ハサル貴重品其ノ他
ノ物件ニシテ其ノ内部ニ至ルマテ消毒方法ヲ施ス
ノ必要ナシト認メタルモノ(同上改正)

第十一條 消毒方法ノ應用ハ左ノ如シ

第一 患者
傳染病患者治療シタルトキハ全身入浴ヲ行ヒ衣服ヲ
更メシムヘシ場合ニ依リテハ温濕布ヲ以テ拭淨シ入
浴ニ代ユルモ妨ケナシ

第二 死體
傳染病ノ死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ被服ニ昇汞水若
クハ石炭酸水ヲ充分ニ撒布シ又ハ昇汞水若クハ石炭

第六 衣服器具敷物等

傳染病患者ノ着用セル衣類臥具並其ノ病室ニ在ル諸
器具又ハ看病人及患者ニ接シタル家人ノ衣類其ノ他
病者汚染ノ虞アルモノハ各物件ノ種類ニ從ヒ消毒方
法ヲ施行スヘシ

第八條第一ニ掲ケタル物品ノ類ハ加里石鹼又ハ綠石
鹼(毛皮ニハ避クヘシ)ヲ以テ洗ヒ又ハ石炭酸水ヲ以
テ拭淨シ若クハ之ヲ撒布シ「フォルムアルデヒド」
ヲ用ユベシ

第五條ニ掲ケル各消毒方法ヲ施行スルコト能ハサル
モノハ日光ニ曝シ若クハ大氣中ニテ乾燥セシムヘシ

第七 家屋

患者ノ居室其ノ他傳染病者ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑
アル室内各部ハ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ拭淨スヘ
シ但土藏造、洋風建物等密閉シ得ヘキ室内ニハ「フ
オルムアルデヒド」ヲ用キルコトヲ得
消毒後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ乾燥セシム
ルヲ要ス

第七ノ二 井戸、水槽等

傳染病者ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル井戸、水槽等ニ
ハ水量五十分一ノ生石灰ヲ乳狀トナシテ投入シ能ク

攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リテ熱蒸氣ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

第八 汽車

傳染病患者若クハ死體アリタル汽車内ノ消毒ハ第七ニ準スヘシ傳染病患者ノ吐瀉物其ノ他排泄物ニ對シテハ消毒藥ヲ混シ適宜處置スヘシ

第九 船舶

傳染病患者若クハ死體アリタル船室内ノ消毒ハ第七第八ニ準スヘシ其ノ他ノ場所ニ對シテハ消毒藥ノ散布擦拭等適宜處置スヘシ

●傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件

第一條 地方長官(東京府ハ警視廳)ハ傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セントスルトキハ其ノ旨ヲ建物土地ノ所有者又ハ管理者ニ通達ス

●傳染病豫防法第二十四條補助ニ關スル件

府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規程ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

●檢疫委員設置規則

第一條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防事務ニ就キ府縣知事(東京府ハ警視廳)以下之ニ依リ之ヲ命ス
警視廳ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得
第二條 檢疫委員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ傳染病豫防事務ノ監督府縣ニ於テ施行スル船舶汽車ノ檢疫其ノ他傳染病豫防救済ニ關スル事務ニ從事ス
第三條 檢疫委員ノ設置及廢止ハ之ヲ告示スヘシ
第四條 檢疫委員ノ組織及職務ハ第五條以下ニ準據スヘシ但應府縣ノ本廳ニ限リ檢疫委員ヲ置キ又ハ郡市島ニ限リ檢疫委員ヲ配置スルモ妨ナシ
第五條 應府縣ノ本廳ニ檢疫委員長一人ヲ設ク但必要アルトキハ副長一人又ハ數人ヲ置ク
檢疫委員長ハ警部長(警視廳ハ警察醫長)副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス
第六條 府縣知事ハ郡市島ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其ノ郡市島内ニ屬スル第二條ノ事務ニ從事セシムルコトヲ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精算額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但シ支出ニ伴フ收入又ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ歩合ヲ定ムルコトヲ得(三十四年内務省令第七號ヲ以テ本令中改正)
二 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シテ別段ノ補助歩合ヲ定メ又ハ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジテ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但本項ニ依リ算出シタル補助ノ金額前項六分ノ一ヲ下ルトキハ六分ノ一迄増額シ二分ノ一ヲ超ルトキハ二分ノ一迄減額スヘシ
三 市町村ノ支出額其ノ負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ二分ノ一以上全部迄ヲ補助スルコトヲ得
四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但金額ニ換算スヘシ
五 市町村ヨリ申請セル支出精算額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スルコトヲ得(三十四年内務省令第七號ヲ以テ追加)

得

第七條 檢疫委員事務所ニ所長一人及副長一人又ハ數人ヲ置ク

檢疫委員事務所長ハ郡長島司又ハ警察署長ニ副長ハ委員中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第八條 檢疫委員ノ職務章程ハ府縣知事之ヲ定ム

●市町村ニ設置スヘキ避病院 設備標準

(明治二十八年四月内務省訓令第四號)

- 一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハカメテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ
- 一 避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ
 - 一 重症患者室 若干棟
 - 一 輕症患者室 若干棟
 - 一 快復期患者室 一棟
- 一 以上ノ建物ニハ各別ニ厠ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ
- 一 醫員其他事務員詰所 一棟
- 一 廁所看護人室及炊場等 一棟

- 但浴室厠ヲ備フヘシ
- 一 消毒所 一箇所
- 但洗濯所ノ附屬ヲ要ス
- 一 屍室 一箇所
- 一 汚物置場及燒却所 一箇所
- 一 物置 一箇所
- 町村ニ於テハ其狀況ニヨリ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ同一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得
- 一 病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ造ルヘシ
- 一 病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌消毒ニ便スヘシ
- 一 屍室ハ床ヲ漆喰敲キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 一 各病室ノ床下ハ可成漆喰敲キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設ケテ之ニ入ルノ施設ヲ爲スヘシ
- 一 避病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師調劑掛看護人事務員ヲ置クヘシ
 - 一 醫長 一人
 - 一 醫員 患者十五名乃至二十名ニ付一人
 - 一 調劑掛 二人以上
 - 一 看護人 患者五名ニ付一人

一事務員

町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫長、調劑掛ヲ置カス醫員ニ於テ兼スルコトヲ得

●「ペスト」菌取扱規則

(明治三十四年十二月内務省令第三十九號)

- 第一條 生活「ペスト」菌又ハ之ニ疑ハシキ細菌ヲ貯藏シ其ノ培養又ハ動物試驗等ヲ行ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 検査所ノ名稱及位置
 - 二 検査所建物ノ構造、敷地ノ坪數及圖面
 - 三 所長、主任者及主任代理者ノ氏名、履歷
- 前項ノ認可ヲ受ケタル後前各號ノ事項ニ變更ヲ要スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ
- 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得
- 第二條 検査所ノ開始及廢止ハ五日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ
- 第三條 検査所ハ他ノ建物ト隔離スヘシ但シ一建物ヲ區畫シテ其ノ一部ニ検査所ヲ設クルコトヲ得
- 検査所ニハ少クモ左ノ三室ヲ設ケ其ノ出入口ノ戸扉ニハ鎖鑰ヲ備フヘシ

- 一 「ペスト」菌ノ培養及顯微鏡検査室
- 二 試驗動物ノ收容及解剖室
- 三 消毒室
- 第四條 検査所各室ノ床及側壁ハ不滲透質ノ材料ニテ造リ洗滌消毒ニ便ニスヘシ
- 窓、換氣孔、排水孔其ノ他外部ニ開口スル孔隙ハ蚊蠅ノ出入ヲ防クニ足ルヘキ緻密ナル金網ヲ以テ被フヘシ
- 汚水溜ニハ蓋ヲ設ケ其ノ周壁及排水管ハ不滲透質ノ材料ニテ造ルヘシ
- 第五條 検査所ニ於テハ左記ノ器具、裝置ヲ設備スヘシ
 - 一 生活「ペスト」菌及本菌ノ疑アル材料ノ容器
 - 二 試驗動物容器(硝子器若ハ金屬板ヲ張りタル箱ニシテ金網製ノ蓋ヲ有スルモノ)
 - 三 消毒裝置(燒却爐、蒸氣消毒器、乾熱消毒器、消毒藥壺ノ類)
 - 四 其ノ他「ペスト」菌ノ検査ニ必要ナル物品
- 第六條 検査所主任及其ノ代理ハ「ペスト」菌ノ培養「ペスト」菌ノ検査及試驗動物ノ取扱其ノ他ノ取締ニ關シ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
 - 一 主任又ハ其ノ代理者ノ在ラサルトキハ助手、使丁ヲ検査室ニ留マシムヘカラス

- 二 検査室、動物室、消毒室等ニハ猥ニ他人ヲ入ラシムヘカラス
- 三 何人ト雖モ検査室、動物室、消毒室ニ入ル際ハ豫防衣ヲ著シ出ルトキハ之ヲ脱シ手足ヲ消毒スヘシ又室内ニ於テハ飲食、喫煙スヘカラス
- 四 豫防衣ハ一週二回以上消毒ヲ行ヒ之ヲ洗濯スヘシ若病毒ニ汚染シタルトキハ其ノ都度消毒ヲ行フヘシ
- 五 検査室ニハ無用ノ物品ヲ置クヘカラス
- 六 室内ノ物品ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非レハ他ニ搬出スヘカラス
- 七 生活「ベスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ確實ニ閉鎖シ得ヘキ容器ニ納メ主任又ハ其ノ代理者ノ外手ヲ觸ルヘカラス
- 八 汚物又ハ汚物ニ觸レタル物品ハ速ニ消毒ヲ行ヒ又ハ焼却スヘシ
- 九 一度検査室ニ入レタル動物ハ撲殺ノ上焼却スヘシ
- 十 斃死シタル試験動物ハ焼却スヘシ
- 十一 汚水溜ノ汚水ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ搬出スヘカラス
- 十二 主任又ハ其ノ代理者検査室ヲ退出スルトキハ出入口ノ戸扉ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

- 第七條 生活「ベスト」菌及有菌ノ疑アル材料ノ紛失又ハ試験中ノ動物逸シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ所轄警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ
- 第八條 生活「ベスト」菌及有菌ノ疑アル材料ハ何人ト雖モ之ヲ授受スルコトヲ得ス但シ検査所間又ハ官廳ト検査所間若ハ警察官署ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 生活「ベスト」菌ヲ遞送スル場合ニハ培養物ヲ入レタル硝子管ヲ熔閉シ濾過紙又ハ綿等柔軟ナル物ヲ以テ被包シ「ブリキ」罐内ニ入レ更ニ之ヲ木箱ニ納メ柔軟ナル物ヲ以テ填充シテ嚴封ヲ施シ「注意物」ト明記スヘシ
- 患者若ハ死體等ヨリ採取シタル検査材料ヲ遞送スル場合ニハ之ヲ密閉シ得ル硝子管内ニ納メ前項ニ準シテ之ヲ處置スヘシ
- 第十條 診断ノ目的ヲ以テ臨時施行スル醫師ノ検査ニ對シテハ本則ヲ適用セス但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ検査ヲ停止スルコトヲ得
- 第十一條 第一條第八條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 第二條第七條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰

金ニ處ス

附則

- 第十三條 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ行フ「ベスト」菌取扱ニ關シテハ本則ノ規定ヲ準用ス
- 第十四條 本則施行ノ際現存スル検査所ハ明治三十五年六月三十日迄ニ本則ニ依リ認可ヲ受クヘシ
- 前項ノ期間内ハ其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得
- 第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

家鼠驅除方

(明治三十二年十一月内務省訓令第三十六號)

家鼠ハ「ベスト」病毒傳播ノ重ナル媒介タルヲ以テ神戸市其他「ベスト」流行地方ト交通頻繁ナル地方ニ於テハ家鼠ヲ驅除スルノ方法ヲ設クヘシ

肺結核豫防ニ關スル件

(明治三十七年二月内務省令第一號)

第一條 學校、病院、製造所、船舶發着待合所、劇場、寄席、旅店其他地方長官ノ指示スル場所ニハ適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

- 警察官署ハ前項配置ノ唾壺不適當ナルカ若ハ其ノ箇數充分ナラスト認ムルトキハ期間ヲ定メテ唾壺ノ變更ヲ命シ若ハ箇數ヲ指定シテ之ヲ増設セシムルコトヲ得
- 前項ノ唾壺ニハ唾痰ノ乾燥飛散ヲ防ク爲少量ノ消毒藥液又ハ水ヲ入レ置キ唾壺内ノ唾痰ハ第六條ノ方法ニ依リ消毒スルニアラサレハ投棄スヘカラス
- 第二條 前條ノ場所ニ於テハ何人ト雖モ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス
- 第三條 地方長官ノ指定シタル礦泉場海水浴場轉地療養所ニ於ケル旅店ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 營業用ニ供スル寢具ハ白布ヲ以テ被包スルコト
 - 二 前號ノ白布及貸浴衣ハ使用者ヲ更ムル毎ニ洗濯スルコト
 - 三 肺結核患者若ハ其ノ疑アル患者ナルコトヲ知リタルトキハ其ノ患者ノ居室ハ消毒スルニアラサレハ他人ヲ宿泊セシメサルコト
 - 四 前號ニ掲ケル患者ノ使用シタル物品ハ消毒スルニアラサレハ他人ニ使用セシメサルコト
- 第四條 病院ハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 肺結核患者ト他ノ患者トヲ同室ニ收容セサルコト
 - 二 肺結核患者ヲ入レタル病室ニハ消毒スルニアラサ

レハ他ノ患者ヲ收容セザルコト
三 結核病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物品ハ使用者
ヲ更ニ毎ニ消毒スルコト

第五條 監獄、官公立ノ學校、病院、養育院、育兒院、
製造所、官設及私設ノ鐵道停車場、同客車ニ於テハ其
ノ首長ハ本令ノ規定ニ準シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第六條 消毒方法ハ明治三十年(五月)内務省令第十三號
ニ依ルヘシ但シ唾痰ヲ消毒スルニハ石炭酸水(二十倍)
結晶石炭酸五分、鹽
酸一分、水九十四分
ヲ使用スヘシ

第七條 第一條第一項ニ違背シテ唾壺ヲ配置セザル者、
警察官署ノ指定シタシ期間ニ其ノ命令ヲ履行セザル者
同條第三項及第三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第八條 第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科
料ニ處ス
第九條 第四條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ
處ス

附則

第十條 第七條第九條ノ罰金ハ使用人其ノ他ノ從業者ノ
所爲ト雖モ之ヲ其ノ首長又ハ營業者ニ科ス法人ノ代表
者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令

ニ規定シタル罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被
告人トス

第十一條 本令ノ規定ハ廳府縣令ヲ以テ肺結核豫防ニ關
スル規定ヲ設クルコトヲ妨ケス
第十二條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監
之ヲ行フ
第十三條 本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

●癩豫防ニ關スル件

(明治四十年三月十八日法律第十一號)

第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消
毒其ノ他豫防方法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届
出ヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ
第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テ
ハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他豫防方法
ヲ行フヘシ

第三條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモ
ノハ行政官廳ニ於テ命令ノ定ムル所ニ從ヒ療養所ニ入
ラシメ之ヲ救護スヘシ但シ適當ト認ムルトキハ扶養義
務者ヲシテ患者ヲ引取ラシムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ
前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救
護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市
町村長(市制町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市町村
長ニ準スヘキ者)ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居
者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指定シ其ノ道府縣
内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲ニ必要ナル療養所ノ
設置ヲ命スルコトヲ得

前條療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大
臣之ヲ定ム
主務大臣ハ私立ノ療養所ヲ以テ第一項ノ療養所ニ代用
セシムルコトヲ得

第五條 救護ニ要スル費用ハ被救護者ノ負擔トシ被救護
者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
第三條ノ場合ニ於テ之カ爲ニ要スル費用ノ支辨方法及其
ノ追徴方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 扶養義務者ニ對スル患者引取ノ命令及費用辨償
ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコト
ヲ得但シ費用ノ辨償ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五

條及第九百五十六條ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者
ニ對シテ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス但
シ沖繩縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テハ國庫ノ
負擔トス

一 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル救
護費

二 檢診ニ關スル諸費

三 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關ス
ル諸費

第四條第一項ノ場合ニ於テ其ノ費用ノ分擔方法ハ關係
地方長官ノ協議ニ依リ之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキ
ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四條第三項ノ場合ニ於テ關係道府縣ハ私立ノ療養所
ニ對シ必要ナル補助ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ費
用ノ分擔方法ハ前項ノ例ニ依ル

第八條 國庫ハ前條道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所
ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス

第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シ
タル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑アル患者ノ檢診ヲ行ハシ
ムルコトヲ得

癩ト診断セラレタル者又ハ其ノ扶養義務者ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得
行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得

第十條 醫師第一條ノ届出ヲ爲サヌ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●癩豫防ニ關スル件施行規則

(明治四十年七月内務省令第十九號)

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ
癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍、住所、氏名及病況並扶養義務者ノ住所、氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ
警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムベキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ
當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ

取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ
本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癩患者ノ救護ニ要スル費用ノ支辨、追徴及負擔ニ關スル件

(明治四十年七月勅令第二百六十二號)

第一條 明治四十年法律第十一號第三條ニ依リ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ノ一時救護ニ要スル費用ハ必要アルトキハ救護地道府縣ニ於テ之ヲ繰替支辨スヘシ
市町村長ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村ニ於テ繰替支辨スヘシ

第二條 前條ニ依リ繰替支辨シタル費用ハ被救護者ニ、被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ニ其

ノ辨償ヲ求ムヘシ此ノ場合ニ於テ必要アルトキハ義務者ノ住所地方若ハ所在地ノ地方長官又ハ市町村長ニ其ノ徵收ヲ委託スルコトヲ得

辨償金ノ徵收ニ關シテハ府縣稅徵收ノ例ニ依ル

市町村ニ於テ繰替支辨シタル費用ニシテ前二項ニ依リ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ニ其ノ辨償ヲ求ムヘシ

第三條 一時救護ニ要シタル費用ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ救護地道府縣ノ負擔トス

第四條 療養所ニ於ケル救護費ニシテ被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルモノハ被救護者ノ本籍地ナキカ又ハ不明ナルトキハ救護地ノ屬スル療養所設置區域内道府縣ノ負擔トス療養所ニ送致スル費用ニ付亦同シ

第五條 癩患者死亡シタルトキハ救護ノ費用ハ其ノ遺留ノ金銀又ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサル場合ニ於テ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ遺留物件ヲ賣却シテ之ニ充ツルコトヲ得

第六條 本令ニ依リ道府縣ニ於テ繰替支辨シ又ハ負擔スヘキ費用ハ沖繩縣及東京府下伊豆七島小笠原島ニ於テ

ハ國庫ノ支辨トス

第七條 本令ニ於テ市町村又ハ市町村長ト稱スルハ市制町村制ヲ施行セサル地ノ之ニ準スヘキモノヲ包含ス

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章 種痘

●種痘規則

(明治十八年十一月第三十四號布告)

第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ラス掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條 種痘ヲ受ケヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキハ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證明ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ届出ヘシ

第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

●種痘施術心得書

(明治十八年三月内務省甲第九號達)

種痘ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採取及時蓄ノ法善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサルヘカラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施ササルヲ可トス

一 生後七十日ヲ經サル者

二 種痘ノ爲メニ一時増進スヘキ病患アル者

三 丹毒流行ノ土地ニ住居スル者

四 蔓延性ノ皮膚病アル者

五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 種痘ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊三稜筋抵止ノ部位ニ於テ各々三針乃至五針(受痘者ノ年齢體質等ニ隨フ)トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ最輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スルモノハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育兒院等へ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ附與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ附與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度内務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

右 奉勅旨布告候事

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スル
トキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ其法ト
スレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニ
シテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒ
サルヲ可トス

第三 痘苗採取及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス

一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發暈非常ニ大ナル者
痂縁又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シ
テ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘ
ハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 痘ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐
敗ニ向ハントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者
爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑ア
ル者

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日(二十四時)ヲ以

テ一日ト算ス下皆同シ)ヲ以テ佳トスト雖モ時候ノ寒
暖及ヒ各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度
トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル
所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ

第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ痂面ヨリ斜ニ
淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス

第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス
又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝
子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子製毛細管ニ吸入セシメ
テ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ
(痘苗ノ貯蓄其宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効
力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ
以テ要點ト爲ス

一 接種後第二日以内成形ヲ始メシヤ否
二 痘疱常形ニシテ其大サ及皮下皮上其ニ同一ナルヤ
否

三 紅暈ハ常形ナルヤ否

四 經過整然トシテ其時間ヲ誤ラサルヤ否

第五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其
他ノ徵候ヲ呈スルヤ否

第六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度
ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ候微ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ
接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコト無シ
施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレトモ暫時ニ
シテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以
テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者
ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル丹形若クハ楮
圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ
見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ痂ノ中央ニ
ハ陷凹ヲ呈シ痂中ニハ稀薄透明ニシテ稍々帶藍色ナル
液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸病益増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ
陷凹シ微シク疼痛アリ痂中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著

シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或
ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下
ニ疼痛ヲ覺ニ水脈腺腫起スルコト有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ水泡化膿シテ白濁或ハ黃色ノ膿稠液ト爲リ
痂ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルコト無ク乾
日ヨリ收斂ヲ始メ痂ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾
固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス

爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮
膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至
リ始メテ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル痂痕ハ圓形又ハ楮
圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹
點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ
其痘痕小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ
一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違セスシテ
直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺エスシ
テ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或
ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆

疎ナル痲皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ痲ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痲皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數痲相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痲皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痲皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痲皮剝脱シ後ニ遺セル痲痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ

第三章 醫術藥業並藥品

醫師法

(明治廿九年五月法律第四十七號)

第一條 醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 帝國大學醫科大學醫學科又ハ官立、公立若クハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 醫師試驗ニ合格シタル者

三 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學校ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖モ熱性病ヲ除ク外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

秋季種痘施行ノ件

(明治三十年十月內務省訓令第十九號)

警視廳 北海道廳 府縣

從來各地方ニ於ケル種痘施行ノ狀況ヲ觀ルニ多クハ春季ヲ主トシ秋季種痘ハ或ハ全ク施行セサル町村モ少ナカラズ蓋シ秋季ハ農家收藏ノ時ナルヲ以テ勢ヒ此慣行ヲ馴致シタルモノナルベシト雖モ痘瘡ノ流行ハ之ヲ既往ノ實歴ニ徵スルニ概テ十一月、十二月ノ交ヨリ翌年四五五月ニ渉ルヲ常トスルヲ以テ今若シ秋季種痘ニシテ普及セザラン乎春季種痘後出生ノ兒童ハ多クハ未タ種痘ヲ了ヘスシテ流行期ヲ迎フルモノニシテ甚タ危險ノ至リニ付自今市街地ニ於テハ主トシテ秋季ニ於テ種痘シ其他村落ニ於テモ可成秋季種痘ノ一層行届候様措置スヘシ

二 公權停止中ノ者

三 未成年者、禁治產者、準禁治產者、患者、患者及盲者

第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 內務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ラ診察セスシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス

第六條 醫師ハ帳簿ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、住所、職業病名及療法ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 醫師ハ其ノ技能ヲ誇稱シテ虛偽ノ廣告ヲ爲シ又ハ秘密療法ヲ有スル旨ヲ廣告スルコトヲ得ス

第八條 醫師ハ醫師會ヲ設立スルコトヲ得

醫師會ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

第九條 醫師會ハ醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十條 醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ

其ノ免許ヲ取消スヘシ
醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處
セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又
ハ期間ヲ定メテ醫業ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ事免
許前ニ係ル場合亦同シ
本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第三號ノ原因
止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與
フルコトアルベシ

本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後
段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中
醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十
三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ
處ス

附 則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト
雖仍其ノ效力ヲ有ス
本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セサル官立、府
縣立醫學校ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ
有セサルモ免許ヲ與フルコトアルヘシ

本法施行前醫術假開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後
ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免許地域外ニ診察所、治
療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス
前項但書ノ規定ハ往診治療ヲ爲スコトヲ妨グズ
第十四條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ
適用セス醫術開業試験規則ニ依リ醫術開業試験ヲ舉行
ス
前項ノ試験ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有
スル者ト看做ス

●醫師法施行規則

(明治三十九年九月内務省令第二十七號)

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一
項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載
シタル申請書ニ戸籍謄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經
由シ内務大臣ニ提出スベシ
内務大臣ハ免許ヲ與ルトキハ醫籍ニ登錄シ醫師免許證
ヲ下付ス

第二條 醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ
一 登錄番號及登錄年月日
二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月

日及女子ナルトキハ其ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資
格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許ノ取消、醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルト
キハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所
ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スヘ
シ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事
由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務
大臣ニ醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記
シ三十日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ
再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納
付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地
方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄
税又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘ
シ

既ニ納付シタル登録税又ハ手数料ハ之ヲ返付セス

第六條 醫師醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住
所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘ
シ

醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ
依リ届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘ
シ

第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地
方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシ
タルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出
張所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地
ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止廢止シ又ハ診察
治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動
ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方
長官ニ届出ヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ
前項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常アリト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ

第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所ノ地方長官ニ提出スヘシ前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス
一 醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ
一 免許證再下付ノトキ

第二條 前條第一號ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ醫師ニ對シ試験ヲ要セス醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

●醫師會規則

(明治三十九年十一月
内務省令第三十三號)

第一條 醫師會ハ郡市區醫師會及道府縣醫師會トス本令ニ依リテ設立シタル醫師會ニ非サレハ前項ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條 郡市區醫師會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ會員ト爲ルヘキ者十人以上發起人ト爲リ會則案ヲ作り其ノ會員トナルヘキ者ノ總會議ニ付スヘシ

前項ノ總會議ハ會員ト爲ルヘキ者ノ全員三分ノ二以上出席シ出席員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

會員ト爲ルヘキ者百人以上ニ及フトキハ總會議ニ出席スル者ニ委任シテ表決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委任者ヲ出席員ノ數ニ加算ス

第三條 郡市區醫師會設立ノ議決ヲ經タルトキハ發起人ハ會則ヲ添ヘ地方長官ノ認可ヲ請フヘシ
地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ郡市區醫師會設立ノ旨ヲ告示スヘシ

一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ
第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第九條、第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

(明治三十九年九月勅令第二百四十四號)

第一條 醫師法第一條第一項第二號ニ依リ免許ヲ與フル者左ノ如シ

一 内務大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル資格ヲ有スル者

二 外國醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ醫師免許證書ヲ有スル帝國臣民ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者

第四條 道府縣内三分ノ二以上ノ郡市ニ於テ郡市區醫師會設立ニ至リタルトキハ道府縣醫師會ヲ設立スルコトヲ得

第五條 道府縣醫師會ヲ設立セムトスルトキハ郡市區醫師會協議シ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ會則ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於ケル郡市區醫師會ノ同意ハ各其ノ總會ニ於テ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ本條ノ認可ヲ爲シタルトキハ道府縣醫師會設立ノ旨ヲ告示スヘシ

第六條 郡市區醫師會總會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ選舉シタル議員ヲ以テ組織スルコトヲ得

道府縣醫師會總會ハ郡市區醫師會ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ組織ス

前二項ノ場合ニ於テ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ醫事衛生ニ關シ學識又ハ經驗アル者ニ就キ議員總數五分ノ一以内ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得
特別議員ハ總會ニ出席シ議事ニ參與シ議決ニ加ハルモノトス但シ會則ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 醫師會ハ其ノ總會ノ議決ニ依リ之ヲ解散スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ

前項ノ議決ハ會員又ハ議員ノ總數三分ノ二以上ノ多數決ナルコトヲ要ス

第八條 官立若ハ公立ノ病院ヲ除ク外自己又ハ他人ノ診所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ總テ其ノ所在地ノ郡市醫師會ノ會員トス

前項以外ノ醫師ト雖モ會則ノ定ムル所ニ依リ醫師會會員ト爲ルコトヲ得

地方長官ハ必要ト認ムルトキハ前二項以外ノ醫師ニ對シ醫師會加入ヲ命スルコトヲ得

第九條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣内ニ在ル郡市醫師會ノ全部ヲ以テ組織ス

第十條 郡市醫師會ハ會員中醫師法第二條第三號ニ該當シ又ハ業務ニ關シ不正ノ行爲アリテ免許取消又ハ醫業停止處分ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ意見ヲ地方長官ニ具申スルコトヲ得

郡市醫師會ハ會員中免許取消又ハ醫業停止處分ヲ受ケムトスル者アル場合ニ於テ辯疏ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事實ヲ内務大臣ニ具申スルコトヲ得醫師法第十條

第三號ニ該當スル者アリト認ムルトキ亦同シ

第十一條 郡市醫師會會則ニハ會則ニ違背シタル會員ニ對シ百圓以下ノ過怠金ヲ徴收スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ醫事衛生ニ關スル報告又ハ調査ヲ醫師會ニ命スルコトヲ得

第十三條 醫師會ノ費用ハ郡市醫師會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ道府縣醫師會ニ在リテハ郡市醫師會ノ負擔トス

第十四條 醫師會會則ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ外醫師會ノ議決ニシテ届出又ハ認可ヲ要スルモノハ地方長官之ヲ定ム

第十五條 醫師會ノ議決ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ議決ヲ取消シ又ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ議員ノ改選若ハ醫師會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

役員ノ行爲ニシテ法令、會則ニ違背シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ解職ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ解職セラレタル者ハ三箇年間役員ト爲ルコトヲ得

ハ之ヲ本條第一項ノ市醫師會ニ準用ス

● 齒科醫師法

(明治三十九年五月一日法律第四十八號)

第一條 齒科醫師タラムトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 文部大臣ノ指定シタル齒科醫學校ヲ卒業シタル者
- 二 齒科醫師試驗ニ合格シタル者
- 三 外國齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル者ニシテ法令ノ規定ニ該當スル者

第二條 左ニ掲クル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニアラス
- 二 公權停止中ノ者
- 三 未成年者、禁治產者、準禁治產者、聾者、啞者及盲者

第三條 禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタルモノニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第四條 内務省ニ齒科醫籍ヲ備ヘ齒科醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

トヲ得ス

第十六條 北海道、沖繩縣及島嶼ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ地方長官之ヲ定ム

附則

第十七條 土地ノ狀況ニ依リ二以上ノ郡市ニ於ケル醫師共同シ醫師會ヲ設立スルコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ第二條及第三條ノ手續ニ準シ道府縣醫師會ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市醫師會ハ解散スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ道府縣醫師會ノ支部ヲ置クコトヲ得

本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ本條第一項ヲ除ク外之ヲ本條第二項ノ醫師會ニ適用ス

第十八條 東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區醫師會ヲ設立シ區醫師會協議シ第四條及第五條ノ規定ニ準シ市醫師會ヲ設立スルコトヲ得

第二條及第三條ノ手續ニ依リ市醫師會設立ニ至リタルトキハ前項ノ區醫師會及市醫師會ハ解散スルモノトス

此ノ場合ニ於テハ市醫師會ノ支部ヲ置クコトヲ得

本令中郡市醫師會ニ關スル規定ハ第四條及第五條ヲ除ク外之ヲ區醫師會ニ準用シ道府縣醫師會ニ關スル規定

第五條 齒科醫師ハ自ら診察セシテ診斷書、處方箋ヲ交付シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 齒科醫師ハ帳簿ヲ備ヘ患者ノ氏名、年齢、住所職業、病名及療法ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第七條 齒科醫師ハ其ノ技能ヲ誇稱シテ虚偽ノ廣告ヲ爲シ又ハ秘密療法ヲ有スル旨ヲ廣告スルコトヲ得ス

第八條 齒科醫師ハ齒科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

齒科醫師會ニ關スル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第九條 齒科醫師會ハ齒科醫事衛生ニ關シ官廳ノ諮問ニ應シ又ハ建議ヲ爲スコトヲ得

第十條 齒科醫師第二條第一號又ハ第三號ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

齒科醫師禁錮ニ處セラレタルトキ又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ齒科醫業ヲ停止スルコトアルヘシ

其ノ事免許前ニ係ル場合亦同シ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第三號ノ原因止ミタルトキ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアルヘシ

本條ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項及第三項後

段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十二條 免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者、停止中齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十二條 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ齒科醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

齒科醫師法施行規則

(明治廿九年九月三日内務省令第廿八號)

第一條 齒科醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ齒科醫師法第一條規定ノ資格並住所氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍

謄本ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ提出スヘシ

内務大臣ハ免許ヲ與フルトキハ齒科醫籍ニ登錄シ齒科醫師免許證ヲ下附ス

第二條 齒科醫籍ニ登錄スヘキ事項左ノ如シ

一 登錄番號及登錄年月日

二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三 齒科醫師法第一條規定ノ資格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許ノ取消、齒科醫業ノ停止、其ノ事由、期間及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第三條 齒科醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ齒科醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス

第四條 齒科醫師免許證ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下付ヲ申請スヘシ

前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地

方長官ニ提出スヘシ

第五條 第一條第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅

又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ

既ニ納付シタル登録稅又ハ手数料ハ還付セス

第六條 齒科醫師齒科醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

齒科醫師失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 齒科醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

第八條 齒科醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ齒科醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ新舊兩地ノ地方長官ニ届出ヘシ

官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ診察又ハ

治療ヲ爲ス場所ヲ謂フ

第九條 齒科醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ

第十條 地方長官ハ齒科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ

第十一條 齒科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ

第十二條 齒科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ

第十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

- 一 齒科醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ
- 一 免許證再下付ノトキ
- 一 齒科醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十四條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十八號齒科醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

齒科醫師會ニ醫師會規則ヲ適用スル件

齒科醫師法第一條第三號ニ依リ免許ヲ與フルハ外國齒科醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ齒科醫師免許證書ヲ有スル者ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者ニ限ル

醫術開業試驗規則

（明治三十九年十一月十七日內務省令第三十四號）
齒科醫師會ニ關シテハ明治三十九年十一月內務省令第三十三號醫師會規則ヲ適用ス

（明治十六年十月第廿四號布達）

第一條 醫術開業試驗ヲ受ケントスル者ハ此規則ニ據ルヘシ（廿六年三月文部省令第九號ヲ以テ改正）

第二條 文部大臣ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行ス但東京ニ於テハ本文ノ外隨時ニ後期實地試驗ヲ舉行スルトアルヘシ

試驗ヲ舉行スヘキ地方及試験期日ハ文部大臣之ヲ告示ス（廿九年四月文部省令第五號ヲ以テ改正）

第三條 第四條（廿二年內務省令第七號ヲ以テ削除）

第五條 齒科醫術開業試験ヲ除ク外醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス（廿九年四月文部省令第五號ヲ以テ改正）但外國ノ醫師免許證書ヲ有スル外國人ニ限リ前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得（四十二年三月追加）

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 前期試験科目
- 第一 物理學
 - 第二 內科學
 - 第三 解剖學
 - 第四 生理學
- 後期試験科目
- 第一 外科學
 - 第二 內科學
 - 第三 藥物學
 - 第四 眼科學
 - 第五 産科學
 - 第六 衛生學
 - 第七 臨床實驗
- （細菌學ヲ含ム）
- 前項後期試験科目中第一乃至第六ヲ學說試験科目トシ

テ第七ヲ實地試験科目トス學說試験ト實地試験トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス（廿九年四月文部省令第十七號ヲ以テ改正）

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖學
 - 第二 齒科生理學
 - 第三 口腔外科學及齒科病理學
 - 第四 齒科治療學
 - 第五 齒科藥物學
 - 第六 齒科技工學
 - 第七 實地試驗
- 前項試験科目中第一乃至第六ヲ學說試験科目トス學說試験ト實地試験トハ分テ之ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試験ヲ先ニシ實地試験ヲ後ニス（四十年五月文部省令第十七號ヲ以テ改正）

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受ケタルヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ著シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ申出ヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス。(十七年十二月内務省甲第三十五號告示ヲ以テ改正)

● 産婆規則

(明治三十二年七月勅令第三百四十五號)

第一條 産婆試験ニ合格シ年齢満二十歳以上ノ女子ニシテ産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ非サレハ産婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 産婆試験ハ地方長官之ヲ舉行ス

第三條 一箇年以上産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ産婆試験ヲ受ケルコトヲ得ス

第四條 産婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

産婆名簿ニ登録ヲ受ケントスル者ハ産婆試験合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

第五條 産婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ヲ願出ツヘシ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿ヲ登録ヲ願出ツヘシ前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 産婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

産婆失踪又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第七條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置

ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 産婆ハ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産婆器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り瀉腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 産婆ハ産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ妊婦産婦褥婦又ハ胎兒ノ生兒取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第十條 産婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルトヲ得産婆名簿登録前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條 試験ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ其ノ試験ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登録ヲ受ケタルトキハ其ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスル者又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試験又ハ登録ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ

犯シタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 産婆ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癱瘓ト爲リ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十五條 産婆名簿ノ登録、登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正並産婆業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 産婆名簿ニ登録ヲ受ケスシテ産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 二 産婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 三 産婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
- 五 第七條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行以後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限り當分ノ内出願者ノ履歴ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産婆試験規則

(明治三十二年九月内務省令第四十七號)

第一條 産婆試験願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告示ス

第二條 試験科目ハ左ノ如シ

學說

- 第一 正規妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第二 正規産褥ノ経過及褥婦生兒ノ看護法
- 第三 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第四 妊婦産褥褥婦生兒ノ症病消毒ノ方法及産婆心

得 實地

- 第一 實地試験若ハ模型試験
- 第三條 學說試験ニ合格シタル者ニ非レハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第四條 學說試験ニ合格シ實地試験ニ落第シタル者又ハ實地試験ヲ受ケサル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得
- 第五條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ産婆學校産婆養成所ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ産婆若ハ醫師二名ノ證明アル修業履歴書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヘシ但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ學說試験合格ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ
- 第六條 産婆試験ヲ願出ル者ハ收入印紙ヲ以テ試験手数料金壹圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手数料ハ之ヲ還付セス
- 第七條 地方長官ハ學說試験及實地試験ニ合格シタル者

ニ合格證書ヲ交付シ學說試験ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

第八條 地方長官ハ受験人心得其ノ他試験場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試験場ニ揭示スヘシ
當該官吏ハ受験人心得其ノ他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

●藥品營業並藥品取扱規則

(明治二十二年三月法律第十號)

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試験ヲ受ケ年齢二十年以上ニシテ内務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ニ願出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下附ノ節手数料金參圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ藥劑師名簿ニ登録シ之ヲ公告スヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ内務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下附ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條 藥局ニハ日本藥局法第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ

調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ藥劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ
第十五條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニ
テモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ム
コトヲ得ス

第十五條ノ二 藥劑師ハ正當ノ事故ナクシテ指定藥品ノ
販賣ヲ拒ムコトヲ得ス(四十年四月法律第三十五號追加)

第十六條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通
知シテ指批ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他
藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ
日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條 毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調
劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニ
アラズ

第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋
ニ據リ内外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、
藥局地及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス
第三章 製藥者
第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ
販賣スル者ヲ云フ
第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘ
シ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス
第四章 藥品取扱
第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状、
品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ製造時
藏陣列販賣又ハ授與スルコトヲ得ス
但命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此限ニアラス(四十年四月
法律第三十五號ヲ以テ但書追加)
第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ
外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状、品質、該局方ノ所定
ニ適合シタルモノニ非サレハ製造時藏陣列販賣又ハ授
與スルコトヲ得ス(四十年四月法律第三十五號ヲ以テ改正削除)
第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所
定ニ從フヘシ
第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖輪ヲ

備ヘタル所場ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥
名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ
記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若
クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇醫ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼
稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交附スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及
販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ
付記スヘシ

第三十二條ノ二 第三十七條ノ三ニ掲クル藥種商ニ使用
セラル、藥劑師ハ指定藥品ノ容器又ハ包紙ニ藥局方ノ
所定ニ適合スルコトノ證明ヲ記シ之ニ自己ノ住所氏名
ヲ附記スヘシ(同上追加)

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與
フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セ
ス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條
及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種
商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ販賣スルコト

ヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以
テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記ス
ルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名
ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ
記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名又會社名
ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十七條ノ二 藥劑師ニ非サレハ指定藥品ヲ販賣又ハ
授與スルコトヲ得ス但藥劑師藥種商製藥者間ニ在リテ
ハ此限ニ在ラス

醫師カ第四十三條ニ依リ指定藥品ヲ販賣授與スルハ前
項ノ限ニ在ラス(四十年四月法律第三十五號ヲ以テ追加)

第三十七條ノ三 命令ノ定ムル所ニ從ヒ藥劑師ヲ使用ス
ル藥種商ハ指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得但第
三十二條ノ二ニ依リ其藥品ノ容器又ハ包紙ニ藥劑師ノ
證明アルモノニ限ル(同上)

第三十七條ノ四 土地ノ狀況ニ依リ地方長官ハ期間及營
業所所在地ヲ定メ藥種商ニ指定藥品ノ販賣授與ヲ許可
スルコトヲ得但其藥品ハ藥劑師又ハ前條ノ藥種商ヨリ

得タルコトノ證明アルモノニ限ル(同上)

第三十七條ノ五 第十五條ノ二ノ規定ハ前二條ニ掲クル
藥種商ニ之ヲ準用ス(四十年四月法律第三十五號ヲ以テ追加)

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣
又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ監視員
ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第三十八條ノ二 何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品ニシ
テ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認めタルモノハ行政
官廳ニ於テ其製造、貯藏、陳列、販賣又ハ授與ヲ禁止
スルコトヲ得(同上追加)

前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ藥品ノ所有者若クハ所持
者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ之ヲ廢棄シ其他必
要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但所有者又ハ所持者ニ於テ
衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ處置センコト
ヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

藥局方ノ所定ニ適和セサル藥品アルトキ亦前項ニ同シ
第三十八條ノ三 此規則ニ於テ指定藥品ト稱スルハ內務
大臣ノ指定シタル藥品ヲ謂フ(同上追加)

第五章 罰則

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ四百圓以下

ノ罰金ニ處ス

- 一 藥品ノ容器又ハ包紙ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者
- 二 第二十六條又ハ第二十七條ニ違背シタル者
- 三 第二十八條ノ二第一項ノ禁止ヲ犯シタル者
- 三十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ貳百圓
以下ノ罰金ニ處ス(同上追加)

一 藥劑師ノ免狀ヲ受ケス又ハ其業務ノ禁止停止ノ處
分ニ違背シテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者

二 第三十七條ノ二第一項第三十七條ノ三又ハ第三十
七條ノ四ニ違背シタル者

第三十九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下
ノ罰金ニ處ス

一 藥劑師ニシテ第十四條第一項ニ違背シ又ハ誤リテ
調劑ヲ爲シタル者

二 第十六條箱十八條第二十二條第二十五條又ハ第三
十條第一項ニ違背シタル者

三 藥劑師ニシテ藥品ノ容器又ハ包紙ニ誤記ヲ爲シ又
ハ事實ヲ知ラスシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル藥
品ヲ貯藏、陳列、販賣若クハ授與シタル者

四 第三十七條ノ三ニ掲クル藥種商ニシテ事實ヲ知ラ
スシテ藥局方ノ所定ニ適合セサル指定藥品ヲ貯

藏、陳列、販賣又ハ授與シタル者

當該官吏若クハ行政官廳ノ令ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ノ
尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其職務執行ヲ拒ミ若
クハ之ヲ忌避シ若クハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰前項
ニ同シ但其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第三十九條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以
下ノ罰金ニ處ス

一 藥種商若クハ製藥者ノ免許ヲ受ケス又ハ業務ノ禁
止若クハ停止ノ處分ニ違背シテ藥種商又ハ製藥者ノ
業ヲ爲シタル者

二 第三十八條ノ二第二項又ハ第三項ノ命ヲ受ケテ指
定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者(同上追加)

第四十條 第十一條第十七條第十九條第二十九條第三十
條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(同上改正)

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十
四條第二項第十五條第十五條ノ二第二十八條第三十六
條第三十七條第三十七條ノ五ニ違背シタル者ハ一圓以
上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十一條ノ二 此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令
ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發
ノ例ヲ用キス

第四十一條ノ三 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルト

キハ此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依
リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但其
業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付
テハ此限ニ在ラス

第四十一條ノ四 當業者ハ其代理人、戶主、家族、同居
者、雇人其他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ此規則又ハ
此規則ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ自己ノ
指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十一條ノ五 前三條ノ規定ハ醫師カ第四十三條ニ違
背シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條ノ六 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ
此規則又ハ此規則ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之
ヲ準用ス

第四十一條ノ七 當該官吏又ハ行政官廳ノ命ヲ受ケテ公
務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關シ不正ノ所爲アルトキハ
一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但
其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

行政官廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者此規則ノ執行ニ關
シ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者
ハ刑法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス(四十年四月法
律第三十五號ヲ以テ追加)

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ら診察スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ效ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年(八月)第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科官立公立醫學專門學校藥學科及高等中學醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下附ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

(二十五法律第六號ヲ以テ本條中追加)

外國ノ大學藥學部若ハ藥學校ニ於テ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ藥劑師免狀ヲ得タル者ニシテ年齡滿二十年

以上ノ者ハ其ノ卒業證書若ハ開業證書ヲ以テ藥劑師免狀ノ下附ヲ願出ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ內務大臣ハ其ノ證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ(三十二年法律第六號ヲ以テ追加)

第四十六條ノ二 藥劑師其ノ業務ニ關シテ犯罪又ハ不正ノ行爲アルトキハ內務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ

其業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得藥劑師ニシテ瘋癲白痴ト爲リ其他其業務ヲ營ムニ堪ヘスト認メタルトキ亦同シ

藥種商又ハ製藥者ハ其業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ所爲アリタルトキハ地方長官ハ其業務ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

內務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ藥劑師ノ業務ノ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得

地方長官ハ藥劑商又ハ製藥者ノ業務ノ禁止又ハ停止ヲ解クコトヲ得

第四十六條ノ三 此規則中地方長官ニ屬スル職權ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

第四十六條ノ四 此規則中醫師ニ關スル規定ハ齒科醫師及獸醫ニ之ヲ適用ス(明治四十年四月法律第三十五號ヲ以テ追加)

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年(二月)第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

附則 (四十年四月法律第卅五號ヲ以テ追加)

本法ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス免狀ヲ得テ五箇年以上藥種商ト爲リ本法施行ノ際現ニ其業ヲ營ム者ハ法人ヲ除クノ外本法施行後ト雖指定藥品ヲ販賣又ハ授與スルコトヲ得但本法施行後六箇月以內ニ地方長官ニ其旨ヲ届出タル者ニ限ル

第十五條ノ二及第三十九條ノ三第一項第四號ノ規定ハ前項但書ノ届出ヲ爲シタル藥種商ニ之ヲ適用ス

第二項但書ノ届出ヲ爲シタル藥種商ニシテ正當ノ事故ナクシテ指定藥品ノ販賣ヲ拒ミタルモノハ罰第四十一條ニ同シ

第二項但書ノ届出ヲ爲シタル者ヲ除ク外本法施行ノ際現ニ營業スル藥種商ニハ本法施行ノ日ヨリ三箇年ヲ限リ第三十七條ノ二ヲ適用セス

●毒藥劇藥ノ品目

(明治三十九年十二月廿七日內務省令第三十六號)

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據ル毒藥劇藥ノ品目ハ明治三十九年七月內務省令第二十一號日本藥局方第二表第三表ニ掲クルモノ及左ニ掲クル藥品トス

本令ハ明治四十年一月一日ヨリ施行ス
明治二十五年三月內務省令第二號毒藥劇藥ノ品目ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

毒藥

チアン水素酸、チアンカリウム其他チアン化合物但ベ
ルリン藍色素、黃色血滴鹽及赤色血滴鹽ヲ除ク
フルオール水素酸 アモニチン、其化合物並製劑 ア
ホモルヒネ、其化合物並製劑 砒素、其化合物並製劑
アトロピン、其化合物並製劑 プルチン、其化合物並製劑
劑 カンタリヂン、其化合物並製劑 コルヒチン其化
合物並製劑 コニイン、其化合物並製劑 クラトリン
其化合物並製劑 ダツリン、其化合物並製劑 デギタ
リン、其化合物並製劑 エメチン、其化合物並製劑 ホ
マトロビン、其化合物並製劑 水銀化合物但朱ヲ除ク
ヒヨスタミン、其化合物並製劑 ヒヨスチン、其化
合物並製劑 モルヒネ、其化合物並製劑 ナルセイン
其化合物並製劑 ナルコチン、其化合物並製劑 ニコ

チン、其化合物並製劑 磷含有物 フィゾスチグミン
並其製劑 ビロカルピン、其化合物並製劑 スコボラ
ミン、其化合物並製劑 カラバル豆製劑 ストロファ
ンチン ストリキニーネ、其化合物並製劑 可溶性ウ
ラニウム鹽類 ウエラトリン、其化合物並製劑
劇藥

クロール醋酸類 クローム酸鹽類 ブローム水素酸
粗製鹽酸 核酸 發烟硫酸 ビクリン酸鹽類 アガリ
チン鹽類 銀鹽類 酸化アンチモニウム 強アムモニ
ア水 王水 金鹽類 バリウム化合物但硫酸「バリウ
ム」ヲ除ク ベラドンナ製劑 プロモフォルム カド
ミウム並其化合物 カフェイン鹽類 硫化炭素 セリ
ウム鹽類 コカイン、其化合物並製劑 コデイン、其化
合物並製劑 銅化合物 デギタリス葉製劑 サビナ葉
並其製劑 糖質 藤黃製劑 印度大麻草製劑 ドクゼ
リ並其製劑 コニウム草並其製劑 曼陀羅草、葉、子並
其製劑 ヒヨス草並其製劑 烟草製劑 莨菪草並其製
劑 ヒドロオキシールアミン並其鹽類 ヨドール カ
リウム 重碳酸カリウム ナトリウム ニトロベンツ
オル 揮發苦扁桃油但ベンツアルデヒド「ヲ除ク
ラウリケルス油 サビナ油 阿片製劑 汞灰散 アコ

ニット根製劑 烏頭、附子並其製劑 コルヒクム根並其
製劑 ゲルゼミウム根製劑 ヤラツバ根製劑 商陸製
劑 藜蘆根並其製劑 麥角製劑 コツケルス子 巴豆
並其製劑 イグナチユース子並其製劑 サバデルラ子
並其製劑 ストロファンツス子製劑 虎列刺血清 赤
痢血清 ベスト血清 連鎖球菌血清 腸室扶私血清
飯匙蛇毒血清 丹毒治療液 フェロース次亞磷酸鹽含
利別 錫鹽類 タルリン、其化合物並製劑 コツホ新
ツベルクリン ウレタン 亞鉛鹽類但炭酸亞鉛ヲ除ク

明治二十九年七月内務省令第廿一號
(第三改正)日本藥局方拔萃

(第二表) 本表ノ藥品ハ猛烈ナル作用ヲ有シ所謂毒藥ニ
屬ス他ノ藥品ト區別シテ閉鎖セル場所ニ藏メ最モ注意
シテ貯フヘシ
亞砒酸 稀靑酸 鹽酸アボメルヒネ ヨード砒素 硫
酸アトロピン アコニット越幾斯 カラバル豆越幾斯
ブローム水素酸ホマトロピン 昇汞 赤色ヨード汞黃
色酸化汞 赤色酸化汞 サリチール酸汞 ヨード砒素
汞液 亞砒酸カリウム液 鹽酸モルヒネ 硫酸モルヒ
ネ ニトログリセリン 巴豆油 昇汞錠 鹽酸モルヒ

ネ錠 磷 サリチール酸フィゾスチグミン 硫酸フィ
ゾスチグミン 鹽酸ビロカルピン 稍酸ストリキニー
ネ ウエラトリン

(第三表) 本表ノ藥品ハ劇藥ニ屬ス他ノ藥品ト區別シ注
意シテ貯フヘシ

アセトアニリド 石炭酸 粗製石炭酸 流動石炭酸
クローム酸 鹽酸 粗製硝酸 發烟硝酸 ビク
リン酸 硫酸 粗製硫酸 トリクロール醋酸 アガリ
チン 亞硝酸アミール アンチピリン サリチール酸
アンチピリン 苦扁桃水 杏仁水 バクチ水 硝酸銀
硝酸銀加硝石 熔製硝酸銀 ブローム 安息香酸ナト
リウムカフェイン サリチール酸ナトリウムカフェイ
ン カフェイン ブローム樟腦 カンタリス 樟酸セ
リウム 抱水クロラール クロ、フォルウ 鹽酸コカ
イン 磷酸コデイン 發泡コロヂウム 銅禁 硫酸銅
ヂメチールアミドアンチピリン 印度大麻越幾斯 コ
ロシント越幾斯 ヒヨス越幾斯 阿片越幾斯 商陸越
幾斯 莨菪越幾斯 麥角越幾斯 番水甞越幾斯 ベラ
ドンナ葉 デギクリス葉 ヒヨス葉 曼陀羅葉 フオ
ルマリオン コロシント實 昇汞綿 ヨードフォルム綿
グアヤコール 藤黃 印度大麻草 ロベリヤ草 甘汞

蒸汽製甘汞 黄色ヨード汞 油酸汞 白降汞 ヨード
フォルム ヨード 苛性カリ クロール酸カリウム
ヨードカリウム クレオソート グツタベルカ液 ニ
トログリセリン液、次酸醋鉛液、メチールスルフォナ
ル 鉛丹 鹽酸デアセチールモルヒネ 苛性ナトロン
揮發芥子油 阿片 バラアルデヒド アンチピリン
錠 鹽酸コカイン錠 甘汞錠 阿片吐根錠 フェナセ
チン コロシントヒヨス丸 醋酸鉛 酸化鉛 ドー
ル散 アコニット根 ゲルゼミウム根 吐根 ヤラツ
バ根 莨菪根 ヤラツバ脂 ボドフィイルム脂 サント
ニン 麥角 コルヒクム子 カラバル豆 ストロファン
ツス子 番木甞 デフテリア血清 破傷風血清 硫酸
スバルテイン 吐酒石 金硫黃 スルフォナル 昇
汞ガーズ ヨードフォルムガーズ サリチール酸ナト
リウムテオプロミン アコニット丁幾 カンタリス丁
幾 複方クロ、フォルムモルヒネ丁幾 コルヒクム丁
幾 コロシント丁幾 デギタリス丁幾 ゲルゼミウム
丁幾 吐根丁幾 ヨード丁幾 ロベリア丁幾 阿片丁
幾 阿片安息香丁幾 莨菪丁幾 ストロファンツス丁
幾 番木甞丁幾 ツベルクリン コルヒクム酒 吐根
酒 芳香阿片酒 吐酒石酒 クロール亞鉛 スルフォ

石炭酸亞鉛 硫酸亞鉛 緋草酸亞鉛

賣藥規則

(明治十年一月第七號布告)

第一章

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製シ又ハ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者ヲ云フ (三十三年法律第十四號ヲ以テ改正)

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ (十一年第二十七號布告ヲ以テ條中刪除)

但免許ヲ受ケタル者ニ簡所以上ニ於テ之ヲ調製又ハ二箇所以上ニ於テ外國賣藥ヲ輸入スル時ハ其簡所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ (十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加三十三年法律第十四號ヲ以テ改正)

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許ササルヘシ (十一年第二十七號布告ヲ以テ條中改正)

第四條 「第八條ニ記シタル期限中」藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

輸入販賣ノ免許ヲ受ケタル外國賣藥ノ藥味分量用法服量能書ヲ外國ニ於テ改正シタルトキ其賣藥ヲ輸入販賣セント欲スルモノ亦前項ニ同シ (三十三年法律第十四號ヲ以テ本項追加)

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ (十年第八十九號布告十一年第二十七號布告ヲ以テ改正刪除ス)

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 「營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ」 (十九年勅令第七十二號ヲ以テ自然消滅)

第九條 「第八條ニ記シタル期限中」第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月

トナスヘシ」(同上)

第十條 「免許期限内」雖モ「其製藥第三條ニ掲クル所ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニシ又ハ粗惡ニシタル外國賣藥ヲ輸入販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ」 (十一年第二十七號布告三十三年法律第十四號ヲ以テ條中改正)

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セララルル時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者「免許期限内」其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ (十年第八十九號布告ヲ以テ改正)

第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金並ニ鑑札料ヲ上納スヘシ (十四年第二十六號布告ヲ以テ條中改正)

賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金二圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其ケ所毎ニ本文ノ税金並ニ鑑札料ヲ納ムヘシ (十五年第五十二號布告ヲ以テ但書追加)

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ漸鑑札ヲ願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限後半年分ハ翌年一月三十一日限鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ (十一年第四號布告ヲ以テ税金納期改正)

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ (十一年第二十七號布告ヲ以テ但書中改正)

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自カラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之レヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自カラ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方

ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ
 第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 第四條ノ免許ヲ受ケシテ私ニ藥味分量用法律量能等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (三十三年法律第十四號ヲ以テ條中改正)

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (十四年第二十六號布告ヲ以テ條中追加)

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
 第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者又ハ有毒藥ヲ配伍シタル外國賣藥ヲ私ニ輸入販賣スル者ハ其鑑札ヲ取上

ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ (三十三年法律第十四號ヲ以テ條中追加)
 第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ルモノアルトキハ事實取札ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ罰金ノ半額ヲ與フヘシ

賣藥規則取扱手續書及書式

(明治十年三月内務省乙第三十二號達)

一 昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相違候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一 前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ儀ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス
 但鑑札料ハ總テ上納爲致定期納付ノ節勘定帳ニ其區分ヲナスヘシ

一 營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店ニ於テハ別ニ其住居人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス (十年内務大藏兩省乙第六十五號達ヲ以テ本項追加)

一 前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交附取計フヘシ

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月迄ニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以テ本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ (同上改正)

一 賣藥營業者並ニ請賣者免許看版ハ左式ノ通製セシムヘシ

(看版雜形略ス)

一 税金並ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添ユルノミニシテ勘定帳ハ一ヶ年取束ネ毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省租稅局ヘ進達スヘシ (同上)
 但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局ヘ進達スヘシ

一 行商鑑札ハ各管廳ニテ雜形ノ通之ヲ製シ願人ニ下付スヘシ尤行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ (二十一年内務省訓令第十三號ヲ以テ行商鑑札表面記載方ヲ改ム)

但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラス營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ

一 行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ毎半分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度内務省ニ開申スヘシ

一 (十四年内務省乙第二十五號達ヲ以テ行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除ス)

(書式雜形略ス)

○内務省明治十一年十一月乙第七十號達本年九月太政官第二十七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左ノ手續並雜形ニ照準シ取扱可申此旨相違候事

賣藥取扱手續

一 鑑札料紙ハ別紙雜形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎年半期分宛一月七月兩度ニ受取方當省ヘ申立ヘシ
 一 管廳ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等雜形通ノ記入押印ノ上下渡スヘシ

一 家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ赤輪廓ノ分ヲ用ユヘシ

一 免許期限内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ

一 賣藥廢業鑑札是迄當省ヘ返納致來候處自今其儀ニ及ハス管廳ニ於テ消却スヘシ

一 (十四年内務省乙第四十三號達ヲ以テ本項削除)
(鑑札雛形略ス)

○内務省明治十四年四月乙第二十五號達本年(四月)太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年(三月)當省乙第三十二號達賣藥取扱手續中請賣鑑札料及行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云云ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

一 賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルトキハ本年府縣會ニ於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ
一 請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前雛形ノ通製造スヘシ
但大藏省ヨリ下附セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不
及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省
ヘ返納スヘシ

一 請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之筈ニ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ偽ハリ調製候向モ有之候ハ改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルモノニ付速ニ調製相止更ニ賣藥營業爲願出候様取計フヘシ

○内務省明治二十一年六月訓令第十三號明治十年當省乙第三十二號達第八項行商鑑札表面自今左ノ書式ニ依リ記載スヘシ

(書式略ス)

第四章 飲食物取締

●飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件

(明治三十三年二月法律第十五號)

第一條 販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若ハ營業上ニ使用スル飲食物、割烹具及其ノ他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スルノ虞アルモノハ法令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ於テ其ノ製造、採取、販賣、授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ其ノ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ物品ノ所有者若ハ所持者ヲシテ其ノ物品ヲ廢棄セシメ又ハ行政廳ニ於テ直接ニ之ヲ廢棄シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者若ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スルノ虞ナキ方法ニ依リ之ヲ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二條 行政廳ハ吏員ヲシテ前條ノ物品ヲ検査セシメ試驗ノ爲必要ナル分量ニ限り無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事(東京府知事ヲ除ク以下之ニ依フ)ハ法令ニ明文アル場合ニ於テ營業者ニ對シ明治三十三年(二月)法律第十五號ニ依リ行政廳ニ屬スル職權ヲ行フ

前項ノ職權ハ其ノ輕易ナルモノニ限り廳府縣令ヲ以テ警察官署ニ委任スルコトヲ得

第二條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ官吏又ハ衛生技術員ヲシテ明治三十三年(二月)法律第十五號ノ職權ヲ行ハシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯セシムヘシ

證票ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ
二寸二分

表
飲食物監視員ノ證



四六四

裏



印

縣 府 名

●飲食物其他ノ取締施行ニ關スル件

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

法第二百八十四條ノ例ニ照シテ處斷ス

第四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ者ノ重禁鋼ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本法ノ執行ニ關シ不正ノ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁鋼ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 本法ノ執行ニ關シ官吏又ハ公吏ノ命ヲ受ケテ指定ノ期間内ニ之ヲ履行セサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ吏員ヲシテ普通營業時間又ハ營業ノ爲開カルル間ニ限り物品ヲ製造シ採取シ陳列シ貯藏シ若ハ携帯スル場所ニ立入ラシムルコトヲ得

ヲ得

スル件 (明治三十三年三月内務省令第十號)

第三條 官吏又ハ衛生技術員ハ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求メアルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除ク外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

●飲食物用器具取締規則

(明治三十三年十二月內務省令第五十號)

第一條 本則ニ於テ飲食物用器具ト稱スルハ飲食器、割烹具其ノ他飲食物ノ調理器、容器、貯藏器又ハ量器ヲ謂フ

第二條 營業者ハ飲食物用器具ヲ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕スルコトヲ得ス

第三條 營業者ハ飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ鍍布スルコトヲ得ス

第四條 營業者ハ珫瑯又ハ釉藥ヲ施シタル飲食物用器具ニシテ之ニ百分中醋酸四分ヲ含ム水ヲ容レ三十分時間

沸煮スルニ其ノ液中ニ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノヲ製造スルコトヲ得ズ修繕ニ關シテ亦同シ

第五條 營業者ハ哺乳器具ヲ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム鐵製ヲ以テ製造スルコトヲ得ス

第六條 第二條乃至第五條ニ違背シテ製造若ハ修繕シタル飲食物用器具ハ之ヲ販賣シ販賣ノ目的ヲ以テ貯藏若ハ陳列シ又ハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シ又ハ修繕シタル飲食物用器具ノ飲食物ニ接觸スル部分ニシテ鍍金風ノ剝脱シタルモノ又ハ固有ノ光澤ヲ有セサルモノハ營業上ニ使用スルコトヲ得ス

第八條 地方長官ハ第二條乃至第五條ニ違背シテ製造又ハ修繕シタル飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物又ハ第七條ノ飲食物用器具若ハ之ヲ用ヒタル飲食物ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテモ亦同シ

第九條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十條 第二條乃至第七條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサル故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ本人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス(廿九年六月內務省令第十一號ヲ以テ追加)

附則

第十二條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●飲食物防腐劑取締規則

(明治三十六年九月內務省令第十號)

第一條 本則ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲クル物質其

化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ

- 一 安息香酸
- 一 硼酸
- 一 「クロール」酸
- 一 「フルオール」水素
- 一 「フォルムアルデヒッド」
- 一 昇汞
- 一 亞硫酸那篤爾酸
- 一 「サリチール」酸
- 一 「チモール」(廿七年十二月內務省令第十二號ヲ以テ改正)

第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス

防腐劑ヲ使用シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第三條 第一條ニ掲クルモノハ飲食物ノ防腐劑ト稱シテ販賣シ又ハ其ノ目的ヲ以テ製造シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス

第四條 第二條第三條ノ物品ニ關シテハ地方長官ハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第五條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シ明治三十三年(二

月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得
第六條 第二條第三條ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本則ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ効力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ」營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス(廿九年六月內務省令第十三號ヲ以テ追加)

附則

第八條 本則ハ明治三十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第九條 左ノ各號ノ場合ニハ本則施行ノ日ヨリ七箇年間本則ノ規定ヲ適用セス
一 清酒ノ製造又ハ貯藏ノ爲別ニ定ムル試驗法ニ適合スル限度マテ「サリチール」酸ヲ使用スルトキ

二 魚介獸肉ニ硼酸又ハ其ノ鹽類ヲ使用スルトキ
三 魚介ノ貯藏又ハ運搬ノ爲「サリチール」酸又ハ其ノ化合物ヲ使用スルトキ
四 前各號ニ依リ防腐劑ヲ使用シタル清酒、魚介若ハ獸肉ヲ販賣シ又ハ陳列シ若ハ貯藏スルトキ
硼酸、硼酸鹽類及「サリチール」酸ニ限リ前項ノ期間第三條ヲ適用セス
第十條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●牛乳營業取締規則

(明治三十三年四月內務省令第十五號)

第一條 本則ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳及脫脂乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳及粉乳ヲ謂フ
牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾取、製造、販賣又ハ請買ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ
第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脫脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス
牛乳ノ脂肪量ハ全乳ニ在リテハ百分中二・七分以上脫

脂肪乳ニ在リテハ百分中〇・五分以上ノ範圍ニ於テ地方長官其ノ程度ヲ定ムヘシ
第三條 煉乳ハ水分ヲ除ク外全乳ノ諸成分ノ三倍以上ヲ含有スルモノトス
煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五〇分以上トス

第四條 牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ検査セシムヘシ

第五條 牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコトヲ得ス
一 牛疫、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性鵝口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、「アクチノミコーゼ」、氣腫痘、赤痢、乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中毒、亞布答、腐敗性子宮炎、其ノ他熱性諸病ニ罹レル牛
二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ牛
三 分娩後七日以内ノ牛

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附不良ニシテ且有害ノ油藥ヲ施シタル陶器又ハ含鉛玻璃ヲ塗布シタ

ル鐵材料ニテ製シタルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器トシテ使用スルコトヲ得ス
第七條 牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
一 腐敗シタルモノ
二 粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ
三 他物ヲ混合シタルモノ
四 第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ
五 第二條ノ規定ニ適合セサルモノ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ス
第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス
一 腐敗シタルモノ
二 他物ノ混合シタルモノ
三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ
四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
五 第三條ノ規定ニ適合セサル煉乳

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ全乳又ハ脫

脂乳タルコトヲ明記スヘシ

牛乳營業者ハ全乳ト明記シタル容器ニ脱脂乳ヲ容ルルコトヲ得ス

第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ常ニ清潔ニ爲スヘシ

第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒、及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス牛乳營業者ニシテ其疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ疾病ニ罹レル牛ノ隔離ヲ行フヘシ

第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得

前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ非サルハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス

第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號ノ乳製品ニ關シテハ明治三十三年(二月)法律第十五號第一條ニ依

リ處分スルコトヲ得本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同シ

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明治三十三年(二月)法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十七條 第十四條ニ第項ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 牛乳營業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラズト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サルレバ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ期限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第九條 汚物ノ種類汚物掃除等清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、町村制ヲ施行セサル地方

ル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス(廿九年六月內務省令第七號ヲ以テ追加)
第二十一條 本則ハ明治卅三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二十二條 乾牛ノ牛舎及牛乳搾取若ハ乳製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム
第二十三條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

第五編 雜則

汚物掃除法

(明治三十三年三月法律第三十一號)

第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

●汚物掃除法施行規則

(明治三十三年三月内務省令第五號)

第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥泥汚水及屎尿トス

第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第三條 掃除義務者ハ複蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ

汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ

土地ニ定著シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條 溝渠ノ泥水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得

地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘシ

ガラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スヘシ

戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ

公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ボスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ

一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス

二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ監視ス

三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ監視ス

四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス

第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附録書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ居所ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程

ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ屎尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但シ公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條第五條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存

スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 尿管ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其他ノ清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

(附 錄) 戒告書

一 履行スヘキ事項

(記載例) (臺所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壊セル部分ヲ修繕スルコト)

(井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルヲ又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト)

(東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲スコト)

一 履行スヘキ期限 送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又

ハ何時間)以内 右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年月日

氏名 殿

年月日 時送達

氏名

職氏名印

●未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月法律第三十三號)

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其自用ニ供スルモノナルヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四類 土地 水利 河川 砂防

第一卷 土地

●官有地民有地

●官有地特別處分規則

●官有地取扱規則

●耕地整理法

●耕地整理法施行規則

●明治四十年度耕地整理及土地改良獎勵規則

●明治四十二年度耕地整理及土地改良獎勵規則

●整理地登記取扱手續

●非地收用法

●非地收用法施行令

●北海道國有未開地處分法

●北海道國有未開地貸付面積制限

●北海道國有未開地處分法施行令

●北海道國有未開地處分法施行規則

●北海道移住民之財產取得

●北海道移住民之財產取得施行令

●北海道移住民之財產取得施行規則

●水利組合法

●水利組合法施行令

●河川法

●河川法施行規程

●砂防法

●砂防法施行規程

スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 屎尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ヲ限リ公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノノ外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其他ノ清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

(附 錄) 戒告書

一 履行スヘキ事項

(記載例)

(某所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壊セル部分ヲ修繕スルコト)

(井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルヲ又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト)

(東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲スコト)

履行スヘキ期限 送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又ハ時)以内

ハ何時間)以内
右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年月日

職氏名印

氏名 殿

年月日 時送達

氏名

●未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月法律第三十三號)

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セザルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其自用ニ供スルモノナルヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四類 土地 水利 河川 砂防

第一章 土地

- 官有地民有地.....一
- 官有地特別處分規則.....二
- 官有地取扱規則.....三
- 耕地整理法.....四
- 耕地整理法施行規則.....二
- 明治四十年年度耕地整理及土地改良獎勵費規則.....六
- 明治四十一年度耕地整理及土地改良獎勵費規則.....七
- 整理地登記規則.....三〇
- 整理地登記取扱手續.....三三
- 土地收用法.....三五
- 土地收用法施行令.....三五

●北海道國有未開地處分法.....三七

●北海道國有未開地貸付面積制限ノ件.....四〇

●北海道國有未開地處分法施行ニ關スル規程.....四〇

●北海道移住民規則.....四〇

●北海道移住民ニ關スル心得.....四一

第二章 水利

●水利組合法.....四三

第三章 河川 砂防

●河川法.....四六

●河川法施行規程.....四六

●砂防法.....四六

●砂防法施行規程.....四七

第十四類 土地 水利 河川 砂防

第一章 土地

官有地民有地

(明治七年十一月第百二十號布告)

官有地

第一種 「地券」ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(十二年第三十四號布告ヲ以テ改正)

一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種 「地券」ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス(八年第百十四號布告ヲ以テ改正十二年第三十四號布告ヲ以テ改正)

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一 皇族賜邸

官用地

官院省使寮司府藩縣(本支)廳裁判所警視廳陸海軍(本分)營其他政府ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第二種 「地券」ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ(十二年第三十四號布告ヲ以テ改正)

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル者

一 鐵道線路敷地

一 電信架線柱敷地

一 燈明臺敷地

一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一 行刑場

第四種 「地券」ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(同上改正)

一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

民有地

第一種 「地券」ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス(同上改正)

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ濫シ地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云(元第二種ノ處九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス)

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖モ濫地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種 「地券」ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス(八年第四百十四號布告ヲ以テ第三種ヲ改正シ九年第八十八號布告ヲ以テ第二種トナス十二年第三十四號布告ヲ以テ更正)

一 官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云
一 民有ノ用惡水路溜池堤敷及非溝敷地(八年第五十四號布告ヲ以テ本項追加)

一 公衆ノ用ニ供スル道路(十三年第四十三號布告ヲ以テ本項追加)

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

官有地特別處分規則

(明治二十三年七月勅令第三百三十五號)

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セシ隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得
一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其ノ他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ

二 不用ニ屬スル官有地ニシテ其評定價格四百圓以內坪數六百坪未滿ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年四十圓以內貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡スコトキ但賣入二名以上アルキハ此限ニアラス(廿九年八月廿二號改正)

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷溫泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡スコトキ

之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ內務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ內務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ內務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ內務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾センコトヲ請フモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納ス

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ

又ハ引續キ貸渡スコトキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ニ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財產管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

官有地取扱規則

(明治二十三年十一月勅令第二百七十六號)

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ內務大臣之ヲ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ內務大臣地方長官ヲシテ

耕地整理法

(明治三十二年三月法律第八十二號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換若ハ分合、區劃形狀ノ變更及道路、堤塘畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置及之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備并ニ工事ヲ行フヲ謂フ(明治八年二月法律第三十一號ヲ以テ改正)

第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ナキト雖整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地、宅地、名勝地、舊蹟地、古墳、墓地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地及軌道用地ハ此

ヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セザルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

ノ限ニ在ラス

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管應又ハ市役所、町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルモ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ整理施行ノ爲溝渠、堤塘又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受タル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤塘、道路等

ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス

整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤塘、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十一條 參加土地所有者ニハ從前ノ土地ノ地目、面積、等級等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等級等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ從前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金錢ヲ以テ之ヲ清算ス

敷筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テハ其ノ換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ涉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ二市町村以上ニ涉ルコトヲ得ス

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾ト見做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スルマテ從前ノ地域地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第十六條 整理施行ヲ爲シタル爲土地又ハ建物ニ付登記
又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

第十七條 本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地
區内ニ於テ第五條ノ土地ニアラザル土地ヲ所有スル者
ヲ謂フ

第十八條 整理地區ノ屬スル市町村及其ノ隣接市町村ニ
住所ヲ有セザル參加土地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所
ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル一切ノ行爲ヲ
代理セシムルコトヲ得

第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條
第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ
公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地又ハ建物
ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スベシ第三十條
乃至第三十二條ノ命令アリタルトキ亦同シ

第二十章 發起及監督
第二十條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スル
コトヲ要ス

一 整理總會ノ招集及會議ノ方法
二 整理委員ノ員數職務及職務執行方法
三 處務ニ關スル規定
四 補償金評定ノ標準
五 發起及整理ノ費用並夫役ノ賦課徵收方法
六 整理中土地使用ノ方法
七 換地割當及増歩地處分ノ方法

第二十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナ
ク創業總會ヲ招集シテ設計書及規約ノ議定ヲ求ムベシ
第二十六條 創業總會ニ於テ設計書及規約ヲ議定シタル
トキハ發起人ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ
差出シ整理施行ノ認可ヲ申請スベシ

第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲
滞ナク創業總會ヲ招集スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土
地所有者整理委員ヲ互選ス

第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ
異議ヲ述ブルコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ規定ニ違
反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタ
ル土地ノ所有者ハ認可公告ノ日ヨリ三十日以内ニ農商
務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得

訴願ノ裁決前ニ於テハ整理工業ニ著手スルコトヲ得ス

一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上
ノ同意アルコト

二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積
整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價
額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

前項ノ條件ヲ具備シタルトキハ發起人ハ整理施行ヲ發
起スル旨ヲ市町村長ニ届出ヘシ

第二十一條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長
ノ認許ヲ得テ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得但シ之ニ因
リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第二十二條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經
由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理ニ因リテ得ヘキ利益
二 整理施行ノ方法及順序
三 整理地區及之ニ隣接スル土地ノ現形圖
四 整理豫定圖
五 工事ノ著手及竣成ノ時期
六 整理費用及夫役ノ豫算

第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

二十九條 整理施行ノ認可アリタルトキト雖第三條第
二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地アルトキ
ハ認可公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニアラサレハ整
理工事ニ著手スルコトヲ得ス

第三十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ設計書又ハ規
約ノ變更ヲ命シ又ハ整理施行發起ノ認可ヲ取消スコト
ヲ得(廿八年二月法律第
卅一號ヲ以テ改正)

第三十一條 設計書ニ定メタル工事著手ノ期限後十二箇
月以内ニ工事ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ整理施
行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工
事ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三十三條 農商務大臣ハ整理施行ニ關シ其ノ職權
ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得(廿八年二月法律第
卅一號ヲ以テ本
項追加)

第三十四條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス
總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日前ニ各參
加土地所有者ニ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ
事項ヲ記載スヘシ

第三章 總會

參加土地所有者ハ前二項ノ手續ニ反シテ爲シタル決議ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得但シ其ノ決議ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員之ヲ招集ス

第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總面積若ハ地價總額ノ五分ノ一以上ニ當ル參加土地所有者ハ會議ノ目的及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ招集スヘシ

第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ議決權ヲ有ス前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ妨ケス但シ其ノ議決權ハ議決權總數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地數人ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムヘシ

第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依ラスシテ設計書若ハ規約ヲ變更シ又ハ整理施行ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ヘシ

ムルコトヲ得

第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十七條 整理工事完了シタルトキハ整理委員ハ第十條ノ處分及増歩地ノ處分ニ關シ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第四十八條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ當業者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託スヘシ

第五十條 整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決算書ヲ作り整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ遲滞ナク地方長官ヲ經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ差

前項ニ依リ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ停止中若ハ廢止後ノ處分方法ヲ決議スヘシ

第四十條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 創業總會ノ決議並第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ決議ヲ爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第四章 整理委員

第四十二條 整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スヘシ

委員長ハ整理委員ヲ代表ス

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定メタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所有者ヲ代表ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理工事ノ施行、整理ニ關シテ生シタル債務ノ辨濟其ノ他整理施行ニ關シ一切ノ事務ヲ處理スルノ責ニ任ス

(明治廿六年六月法律第十一號ヲ以テ改正)

第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及總會ノ決議錄ヲ備ヘ置クヘシ

參加土地所有者及第三權利者ハ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求

出スヘシ

第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ書類ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ノ書類ノ保存期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル

第五十四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理委員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技藝アル者ヲ協議員ト爲スコトヲ得

協議員ハ總會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五章 第三權利者

第五十六條 第三權利者ハ整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第五十七條 換地ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關スル物權又ハ債權ノ目的タルモノトス整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ボサス

第五十八條 整理地區ニ編入シタル土地ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ

先取特權者、質權者又ハ抵當權者ハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第五十九條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲メ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

第四十八條ノ認可ノ公告アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ各當事者ハ相手方ニ對シテ解除ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルトキハ賃借人ノ貸借人ニ對シテ借賃ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 整理地區ニ編入シタル土地ニ地上權者又ハ永小作權者アル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者又ハ永小作權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

民法第二百六十八條第一項但書ノ規定ハ地上權者前項ノ規定ニ依リテ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ之ヲ適用セズ

第五十九條第一項但書ノ規定ハ地上權又ハ永小作權ノ

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

拋棄ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條ノ規定ハ地上權及永小作權ニ之ヲ準用ス

第六十三條 整理地區ニ編入シタル土地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行ノ後仍其ノ土地ノ上ニ存ス

地役權者カ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クル事ヲ要セサルニ至リタル時ハ其ノ地役權ハ消滅ス

整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 費用及夫役ハ規約ノ定ムル所ニ依リ參加土地所有者之ヲ負擔ス

整理委員ガ規約ノ定ムル所ニ依リ日本勸業銀行又ハ農工銀行ヨリ借入シタル金額及其ノ利子ニ付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準ジテ之ヲ徵收ス

前項徵收金ハ整理地區ニ編入シタル土地ニ關シ市町村其他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖縄縣及市制、町村制ヲ施行セル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前二項ノ規定ニ依ル

第六十六條 發起人又ハ整理委員左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ二回以上五十回以下ノ過料ニ處ス

一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第二十八條第一項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著手シタルトキ

三 第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ召集セサルトキ

四 第三十九條及第四十條ノ手續ニ依ラスシテ整理施行ヲ停止シ又ハ廢止シタルトキ

第六十七條 前項ニ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 整理施行ノ爲設ケタル標石又ハ標杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル場合ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四類 第一章 土地

第十四類 第一章 土地

第十四類 第一章 土地

第十四類 第一章 土地

第十四類 第一章 土地

第十四類 第一章 土地

三 土地各筆ノ字、番號、地目、面積、地價及等位
 四 土地各筆ノ價格ヲ評定シタルトキハ其價格又ハ評價ノ標準
 五 耕地整理法第三條ニ定メタル土地アルトキハ其價值用途
 六 整理地區内ノ工作物アルトキハ其表示及ヒ價格
 七 訴訟ノ目的タル土地アルトキハ其訴訟ノ要領
 八 官用又ハ公用ニ供スル土地アルトキハ其用途
 第五條 參加土地權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 各參加土地所有者ノ氏名、住所及ヒ其所有地ノ字、番號並ニ地目
 二 整理地區内ノ工作物ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ其工作物ノ表示
 三 土地又ハ建物ニ付キ登記ヲ爲シタル第三權利者アルトキハ其氏名、住所及ヒ其登記ノ要領
 四 耕地整理法第十八條ニ依ル代理人ノ氏名、住所
 第六條 參加土地原簿又ハ參加土地權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更正スヘシ
 第七條 耕地整理法第二十條第一項第一號ノ土地所有者ノ數ヲ計算スルニ付テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス

第八條 耕地整理法第二十條第一項第二號ノ整理地區ノ總面積ヲ計算スルニ付テハ御料地及ヒ國有地ハ之ヲ算入セス
 第九條 耕地整理法第二十條第一項第三號ノ整理地區ノ地價額ヲ計算スル場合ニ於テ整理地區内ニ地類若クハ地目ノ變換ヲ爲シタル土地又ハ開墾地其他地價ヲ附セサル土地アルトキハ發起人ハ其現況ニ依リ整理地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ價格ヲ評定スヘシ
 發起人カ前項ノ規定ニ依リ價格ヲ評定シタルトキハ其價格及ヒ其評定ノ標準ヲ創業總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ
 第十條 發起人ハ整理地區ノ屬スル市町村内ニ事務所ヲ設クヘシ
 事務所ニハ參加土地原簿、參加土地權利者名簿、設計書、規約及ヒ總會ノ決議錄ヲ備ヘ置クヘシ
 第十一條 整理施行ノ發起屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人ノ署名捺印スヘシ
 一 整理地區及ヒ之ニ隣接スル土地ノ現形略圖
 二 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ總數、整理地區ノ總面積及ヒ地價總額
 三 同意者ノ總數、其所有スル土地ノ總面積及ヒ地價

總額

四 事務所ノ所在
 第十二條 發起人カ耕地整理法第二十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入ラントスルトキハ其目的、場所、期日及ヒ土地所有者ノ氏名ヲ記載シタル願書ヲ作リ之ヲ市町村長ニ差出スヘシ
 發起人カ市町村長ノ認許ヲ得タルトキハ豫メ土地所有者ニ立入ノ目的、場所及ヒ期日ヲ通知スヘシ
 第十三條 整理發起ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人ノ署名捺印スヘシ
 一 第四條第二號乃至第五號及ヒ第十一條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
 二 整理施行後ニ於ケル土地ノ筆數及ヒ面積地目別ノ合計並ニ一筆平均面積
 三 同意者ノ氏名、其所有スル土地ノ面積及ヒ地價
 四 耕地整理法第三條第二項ノ規定ニ依リ所有者ノ同意ナクシテ整理地區ニ編入シタル土地又ハ特ニ整理ヨリ除外シタル土地アルトキハ其編入又ハ除外ノ理由
 前項ノ申請書ニハ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十四條 耕地整理法第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ整理地區編入ノ同意又ハ認許ヲ要スル土地ニ付テハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其同意又ハ認許ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ但國有ニ屬スル森林原野、道路、堤塘、沼池及ヒ溝渠ニ付テハ整理發起ノ認可申請ト共ニ整理地區編入ノ認許ヲ申請スルコトヲ得
 第十五條 整理工事ガ府縣、郡、市、町村其他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其團體ノ承認ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ
 第十六條 創業總會ニ於テ設計書ヲ變更シタルトキハ前二條ノ書面ハ整理施行ノ認可申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ
 前項ノ規定ハ整理施行ノ認可アリタル後設計書ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第十七條 發起人ハ特別ノ技能アル者ニ設計書及ヒ規約ノ作成ヲ囑託スルコトヲ得
 第十八條 (三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ削除)
 第十九條 土地ノ價格評定ノ標準ヲ定メタルトキハ之ヲ規約ニ記載スヘシ
 第二十條 整理費用ヲ借入レントスルトキハ其借入、管理及ヒ償却ノ方法ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十一條 整理發起ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事

項ヲ記載スヘシ

- 一 整理地區ノ所在
- 二 發起認可ノ年月日
- 三 事務所ノ所在
- 四 發起人ノ氏名、住所

第二十二條 耕地整理法第二十五條ノ創業總會ニ於テハ發起人ハ發起ニ關スル一切ノ事項ヲ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第二十三條 整理施行ノ認可申請書ニハ發起認可證及ヒ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ發起人之ニ署名捺印スヘシ

第二十四條 整理施行ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第二十一條ニ掲ケタル事項
- 二 整理工事ノ著手及ヒ竣成ノ時期
- 三 整理施行ノ認可ノ年月日

第二十五條 發起人ハ創業總會ノ決議録ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 開會ノ日時及ヒ場所
- 二 出席シタル參加土地所有者ノ氏名

農商務大臣ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ
(三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ條中改正)

第三十二條 整理委員ノ任期ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十三條 整理委員ハ規約ニ別段ノ定アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 整理工事ニ著手シタルトキハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第三十五條 耕地整理法第二十八條ノ規定ニ依リ訴願ヲ爲シタル者ハ其旨ヲ整理委員ニ通知スヘシ

第三十六條 總會ノ決議録ニハ第二十五條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ但同條第六號ニ掲ケタル事項ハ耕地整理法第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ場合ヲ除ク外之ヲ記載スルコトヲ要セス
(三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ但書追加)

第三十七條 整理委員ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ從ヒ地價配當案ヲ作り耕地整理法第四十七條ノ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第三十八條 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本及ヒ整理確定圖ヲ添附シ整理委員之ニ署名捺印スヘシ

三 議事ノ要領

四 決議シタル事項

五 賛否ノ數及ヒ賛成者ノ氏名

六 賛成者ノ所有スル土地ノ總面積及ヒ地價總額
三十四年農商務省令第十二號ヲ以テ追加)

第二十六條 發起人ハ整理ニ關スル一切ノ書類及ヒ事務ヲ整理委員ニ引繼クヘシ

第二十七條 總會ノ決議ハ耕地整理法又ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル參加土地所有者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條 參加土地所有者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但參加土地所有者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ發起人又ハ整理委員ニ差出スヘシ

第二十九條 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ決議録ノ謄本ヲ添附シ整理委員之ニ署名捺印スヘシ

第三十條 總會ノ決議認可ノ公告及ヒ通知ニハ決議シタル事項及ヒ認可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第三十一條 整理委員及ヒ整理委員長ニ其氏名、住所ヲ

耕地整理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ換地ヲ割當ツル場合ニ於テハ從前ノ土地ノ各筆ニ相當スル換地ノ部分及ヒ其ノ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

從前ノ一筆ノ土地ノ一部カ登記シタル第三權利者權利ノ目的タル場合ニ於テハ之ニ代ハルヘキ部分及ヒ其ノ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ
(廿七年六月農省令第八號ヲ以テ改正)

第三十九條 前條ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ地價配當案ニ整理確定圖ヲ添附シ所轄稅務管理局長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ

第四十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理事業ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 整理地區内ノ土地又ハ建物ニ關シ登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク其旨ヲ發起人又ハ整理委員ニ通知スヘシ

第四十二條 整理ニ關スル書類ノ保存期間ハ左ニ掲ケタルモノニ付テハ十年トシ其他ノモノニ付テハ五年トス

- 一 設計書
- 二 規約
- 三 總會ノ決議録
- 四 事業報告書
- 五 收支決算書

六 參加土地原簿
七 參加土地權利者名簿
八 整理確定圖

第四十三條 第三十一條及ヒ耕地整理法第十九條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スヘシ

第四十四條 發起人、整理委員又ハ參加土地所有者カ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ
第四十五條 第三條乃至第六條、第十三條、第十五條、第十六條第二項、第十八條、第三十四條、第三十九條、第四十條及ヒ前條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス(附七年六月農商務省令第八號ヲ以テ改正)

附則

第四十六條 地方長官カ地方ノ狀況ニ依リ整理施行ノ方法又ハ工事ノ設計ニ關スル標準ヲ定メントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第四十七條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●耕地整理及土地改良獎勵

費規則

(明治四十年三月二十三日農商務省令第四號)

第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ本則ノ定ムル所ニ依リ明治四十年度ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ明治四十年度ニ於ケル耕地整理及土地改良ノ施行ニ關スル調査、設計及工事監督ニ要スル費用ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

一、明治四十年度ニ於ケル調査設計及工事監督施行豫定書 二、前號ニ要スル設備豫定書 三、費用豫算書
第四條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣前條添附書類ニ記載シタル豫定又ハ豫算ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ費用額ヲ増加スルトキハ補助金ノ増加交付ヲ申請スルコトヲ得

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣ハ調査設計及工事監督ノ實施ニ關スル規程ヲ設ケ農商務大臣ノ認可ヲ受ク

續不良ナリト認ムルトキ亦同シ

附則

第十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●明治四十一年度耕地整理及土地改良獎勵費規則

(明治四十一年四月一日農商務省令第三號)

第一條 耕地整理及土地改良事業ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ左ニ掲ケタル費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

一 耕地整理及土地改良ノ施行ニ關シ明治四十一年度ニ於テ行フ調査、設計、工事監督等ニ要スル費用
二 耕地整理事業中明治四十一年度ニ於テ行フ道路、堤塘、溝渠、橋梁、溜池ノ變更廢置又ハ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事ニ要スル費用ニ對スル補助金

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ前條第一號ノ補助金ニ付テハ明治四十一年四月末日迄ニ、第二號ノ補助金ニ付テハ八月末

ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ明治四十年十月及明治四十一年四月中調査、設計及工事監督ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケル府縣ニ第三條ノ添附書類ニ記載シタル豫定ノ變更ヲ爲スヘキコトヲ命ジ之ニ要スル費用ニ對シ補助金ノ増加交付ヲ爲スコトアルヘシ

第八條 補助金ノ交付ヲ受ケル府縣第三條ノ添附書類ニ記載シタル調査、設計及工事監督ニ關スル施行豫定ヲ明治四十年度内ニ終了シ得サルトキハ年度後ニ於テモ之ヲ繼續遂行スルノ義務アルモノトス

前項施行豫定ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク其ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第九條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ府縣ノ施行ノ狀況及成績ニ付臨時報告ヲ徵シ又ハ實地検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 府縣ニ於テ負擔金額ヲ減少シタルトキ又ハ第四條若ハ第八條ニ違反シ又ハ第七條ノ命令ニ從ハサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得、農商務大臣カ府縣ノ施行成

● 整理地登記規則

(明治三十三年一月勅令第二號)

- 第一條 耕地整理法ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動產登記法ノ規定ニ依ル
- 第二條 整理ヲ施行シタル從前ノ土地既登記ナルトキハ整理委員ハ耕地整理法第四十八條ノ認可アリタルコトノ公告及通知ヲ爲シタル後遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキ又ハ從前ノ土地未登記ナルモ整理施行ノ後換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スルトキ亦同シ
- 第三條 前條ノ登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス
 - 一 申請書
 - 二 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依ル農商務大臣ノ認可證又ハ認證アル認可證ノ謄本
 - 三 整理確定圖
 - 四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

- 第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ整理委員又ハ其ノ代理人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス
 - 一 從前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市、區、町、村字及土地ノ番號
 - 二 從前ノ土地及換地ノ地目、段別又ハ坪數
 - 三 從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分、段別又ハ坪數及其ノ部分ノ符號
 - 四 換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
 - 五 耕地整理ニ因リ登記ヲ申請スル旨
 - 六 登記所ノ表示
 - 七 年月日
- 第五條 從前ノ土地既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ地役權換地ノ一部ノミニ存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シタル圖面ヲ添附スルコトヲ要ス
 - 一 整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市、區、町、字及土地ノ番號
 - 二 整理施行前ニ於ケル換地ノ地目、段別又ハ坪數
 - 三 整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四 地役權ノ存スル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號

第六條 換地ノ一部所有權以外ノ權利地役權ノ除外ノ目的タル場合ニ於テハ申請書ニ第四條ニ掲ケタル事項ノ外權利ノ目的タル換地ノ部分及其ノ符號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ抹スルコトヲ要ス

所有權以外ノ權利地役權ノ除外從前ノ土地ノ一部ニ存スル場合ニ於テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地中權利ノ目的タリシ部分ニ割當テタル換地ノ部分ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シタル旨ヲ附記シ從前ノ土地中權利ノ目的タリシ部分ノ表示ヲ抹スルコトヲ要ス

從前ノ土地ニ關スル權利ニシテ他ノ土地ニ關スル權利ト共ニ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ耕地整理ニ因リテ他ノ土地ニ關スル權利ノ表示ニ變更ヲ生シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ變更ヲ附記スルコトヲ要ス

ス此場合ニ於テハ不動產登記法第二百六條ノ規定ヲ準用ス換地ニ地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス但シ耕地整理ニ因リ其ノ登記中ニ記載シタル要役地若ハ承役地ノ表示、地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ地役權ノ存スル部分ノ表示ヲ爲シ變更シタル事項ヲ抹スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ地役權ニ關スル登記アル土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ耕地整理ニ因リテ地役權ニ關スル登記ヲ登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前ノ登記ヲ抹スルコトヲ要ス

第八條 參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ數箇ノ土地中其ノ一箇ノ登記用紙中表示欄ニ換地、換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及整理施行前ニ於ケル從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因

リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登記用紙ニ於ケル前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其番號及登記番號ヲ朱抹シ其登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第九條 前條ノ場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ハ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノミニ關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

換地ノ一部未登記ノ從前ノ土地ニ割當テタルモノアル場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ換地ノ部分ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ヲ除クニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノミ其ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記

何號ヨリ移シタル旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利地役權ヲ除クニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ相當區事項欄ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ

第十四條 登記官吏登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ整理委員ニ通知スルコトヲ要ス

第十五條 登記官吏第十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スルコトヲ要ス

第十六條 從前ノ土地舊登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第八條第二項ノ手續ヲ爲スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 耕地整理法第二條ノ規定ニ依リ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行シタル場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ整理施行ニ關スル農商務大臣認可證又ハ認證アル認可證ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

附則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●整理地登記取扱手續

(明治三十三年三月司法省令第九號)

第一條 整理地登記規則ニ依ル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

登記官吏捺印スルコトヲ要ス從前ノ土地ノ登記用紙ニ

所有權以外ノ權利地役權ヲ除クニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十二條 第七條第二項乃至第五項ノ規定ハ參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケ又ハ從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル登記ニ之ヲ準用ス

第十三條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シ且丙區事項欄地役權ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

第七條第四項及第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條 整理地ノ登記ニ付テハ別ニ整理地登記見出帳ヲ備フヘシ

整理地登記見出帳ハ別記雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 整理地登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部マテヲ設ケ置キ整理地登記規則ニ依ル登記ヲ爲ス毎ニ換地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部十百千ノ數字冠スルモノ類地ノ番號、從前ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳又ハ土地分合登記見出帳ノ備考欄ニ從前ノ土地ニ對スル換地ノ番號ヲ記入シ其見出ヲ朱抹スヘシ

第四條 整理確定圖及ヒ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ圖面ニハ番號ヲ附シ便宜整理シ永久ニ之ヲ保存スヘシ(三十五年司法省令第十四號ヲ以テ本項改正)

第五條 整理確定圖ノ番號ハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載シ整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出シタル圖面ノ番號ハ丙區事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第六條 整理地登記規則第五條但書ニ依リ提出スヘキ圖

面ニハ換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字、土地ノ番號、方位及ヒ地役權ノ存スル換地ノ部分ノ段別又ハ坪數並ニ其部分ノ符號ヲ記載シテ整理委員署名捺印スヘシ

第六條ノ二 整理地登記規則第三條及ヒ第十七條ニ依リ提出シタル農商務大臣ノ認可證ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ整理委員ハ其原本ト共ニ原本相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ提出スヘシ

登記官吏カ認可證ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ(廿八年十二月司法省令第三十三號ヲ以テ追加)

第七條 整理地登記規則第七條第三項、第十二條、第十四條及ヒ第十五條ノ通知事項、通知ヲ受クル者及ヒ通知ヲ發スル年月日ハ不動産登記法施行細則第十四條第五號ノ通知簿ニ之ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ(三十五年司法省令第十四號ヲ以テ改正)

第八條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依ル登記簿其他附屬書類ノ謄寫ヲ求ムルトキハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ
(別記略之)

●土地收用法

(明治三十三年三月法律第二十九號)

第一章 總則

第二章 事業ノ準備

第三章 事業ノ認定

第四章 收用ノ手續

第五章 收用審査會

第六章 損失ノ補償

第七章 收用ノ効果

第八章 費用ノ負擔

第九章 監督、強制及罰則

第十章 訴願及訴訟

附則 第二章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、

運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水

道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル

事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防

其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他

公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依

リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又

ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用

スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地

ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關

シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存

ノ權利ヲ承継シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣ノ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ

之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

タル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス
第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

- 收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目
- 收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式會社合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ
本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ起ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、柵欄其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘ

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ涉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘

キ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

- 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ期間ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續地分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 條七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモノ一

定ノ期間內ニ終了スル見込ナキ時ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト

有ス

第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クトモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月內ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用

能ハサル時ハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得
第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ
支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ
依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次マ先取特權ヲ有
ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ
又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與ス
ルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得
ズシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處
ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ
許可ヲ得ズシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑
定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓
以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者
ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處
ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二
項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴訟訴訟ハ事業ノ進行及
土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規
定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ
行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收
用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行
ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩
縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ
郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ
於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カ
サル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行
ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テ

シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ
人ニ囑託シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ
第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條
ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキ
ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴訟及訴訟
第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内
務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリト
スル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴訟訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受
ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スル
コトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ
關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シ
テ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁
決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタル
トキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ
得ス

ハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ
市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置
キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テ
ハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏
員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地
建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル
所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治
二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三
十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

●土地收用法施行令

(明治三十三年三月勅令第九十九號)

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規
定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規
定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却ス
ル者ハ其ノ證據ヲ携帶スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者

ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ

起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關

スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御陵墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ

以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ

因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ

至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調査ヲ作リ

タル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シ

タルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報

告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ

許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ

掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生シメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘ

タルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有

者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知

ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使

用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方

長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ

土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者

ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ

依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣

制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ

於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下

二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下

三 馬車賃一里ニ付十錢以上三十錢以下

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定

ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至

五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ

要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スル

コトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官

カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當

ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ノ規定シタル行政廳ノ

職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテ

ハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其

ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ノ規定シタル行政廳ノ

職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行

ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

北海道國有未開地處分法

(明治三十一年四月十四日法律第五十七號)

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳

長官之ヲ行フ

第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間

内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ

儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限

リ特定地ヲ設置ス

特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ

後之ヲ付與ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムト

スル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スル

コトヲ得

第五條 素地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニ

ヲ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スベキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
一 無償貸付 十年
二 有償貸付 十五年

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其ノ他避クヘカラサルノ事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ

取消スコトヲ得

第十三條 賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承継ス

第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定事業方法ニ違反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消ス

ヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還附セス

第十五條 左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルモノヲ除クノ外貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消スヘシ但シ借地ハ之ヲ還付セス

一 第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シタル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ併用セザルトキ

二 第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ併用セザルトキ

第十六條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシムルコト

ヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ依リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價額ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償ス但シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評定價額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多キトキハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス

前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スベキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十七條 自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂、貸付若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノハ國ノ所有ニ歸ス

第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功間期滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦

課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲シタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第二十一條 拓殖上又ハ土地整理上必要アル場合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本法ニ依リ處分スルコトヲ得

第二十二條 賣拂、貸付又ハ付與ノ處分ノ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス

第二十三條 賣拂ヒ又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命シタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動産ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十四條 第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケ

タル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特定地ニ關スル規定ヲ適用ス
舊法ニ依リ賣拂ヒ交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

●北海道國有未開地貸付地面

積制限ノ件

(明治三十年四月勅令第九十八號)

朕北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地面積制限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
北海道國有未開地處分法第三條ニ依レル貸付地面積ハ一人ニ付左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス
一 開墾ニ供スル土地 百五十萬坪
二 牧畜ニ供スル土地 二百五十萬坪

三 植樹ニ供スル土地 二百萬坪
會社又ハ組合ニ對シテハ前項地積ノ二倍迄ヲ貸付スルコトヲ得

●北海道國有未開地處分法施行ニ關スル規程

行ニ關スル規程

(明治三十年五月拓殖務省告示第五號)

本年(三月)法律第二十六號北海道國有未開地處分法施行ニ關スル規程ハ北海道廳長官ニ於テ本年四月北海道廳令第二十五號ヲ以テ公布セリ

●北海道移住民規則

(明治三十九年七月三日內務省令第廿二號)

第一條 開墾ノ目的ヲ以テ團結規約ヲ締結シ又ハ組合ヲ組織シ若ハ單獨ニテ北海道ニ移住シ土地ノ貸付ヲ出願セントスルモノハ現住地ノ府縣知事ニ出願シテ證明ヲ受クルコトヲ得
第二條 前條ニ依リ出願スルトキハ左ノ事項ヲ掲記シ府縣知事ニ差出スヘシ
一 事業ノ目的(開墾牧畜植樹)

二 貸付出願ノ地積

三 移住ノ戸口

四 從來ノ職業

五 總代人ヲ設ケタルトキハ其ノ氏名

六 移住後ニ於ケル鄰保救護ノ方法ヲ設ケタルトキハ其ノ方法

七 移住旅費家屋農具衣食等ノ準備並ニ支出ノ方法

八 小作ノ方法ニ依ル場合ハ前各項ノ外小作契約

九 團結規約

第三條 第一條ノ願出アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ調査シ確實ト認ムルモノニ限り證明ヲ與フヘシ

第四條 團結移住者ニシテ前條ノ證明ヲ受ケタルモノノ爲メニ北海道廳長官ハ別ニ定メタル規定ニ從ヒ其ノ出願ニ依リ開墾地ノ豫定存置ヲ爲スコトアルヘシ

第五條 團結移住者ニシテ證明ヲ受ケタル後一箇年ヲ經過シタルトキハ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニアラサレハ府縣

ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス

一 國有未開地ノ貸付許可書又ハ北海道廳長官北海道廳支廳長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人

二 北海道移住民ノ募集ヲ業トスルモノニシテ其募集人員ニ付豫メ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケタルモノ

第七條 當該官吏又ハ市町村吏員ヨリ前條ノ指令書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 第六條ニ依ル小作人ノ募集又ハ移住ヲ妨害シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

●北海道移住民ニ關スル件

(明治三十九年十一月十九日內務省訓令第十八號)

一 北海道廳長官ハ隨時北海道拓殖ニ關スル必要ノ事項ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

二 前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ府縣知事ハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ管内ニ公示スヘシ

三 一時ニ多數ノ移住者北海道へ出發セントスルトキハ府縣知事ハ其取締保護ニ注意シ豫メ到著港及到著豫定期日ヲ北海道廳長官ニ通知スヘシ

四 北海道移住民規則第三條ニ依リ團結移住者ニ對シテ證明シタルトキハ府縣知事其事項ヲ七日以內ニ北海道廳長官ニ通知スヘシ

五 府縣ニ於テ北海道移住民ニ關スル事項ヲ規定シタルトキハ其重要ト認ムヘキモノハ之ヲ北海道廳長官ニ通知スヘシ

第二章 水利

●水利組合法

(明治四十一年四月十一日法律第五十號)

第一章 總則

第一條 水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ法人トス

第三條 水利組合ハ組合同規約ヲ設ケ組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ
組合同規約ハ之ヲ告示スヘシ其ノ改正アリタルトキ亦同シ

第四條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一 普通水利組合

テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ郡長市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ但シ普通水利組合ノ設置ニ付テハ組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ組合事業ニ關係アル部長又ハ市町村長ノ具申アル場合ニ限ル

第二十三條 第三項ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス
第十一條 創立委員ハ組合同規約案ヲ調製シ關係者ノ總會ニ付スヘシ關係者百人以上アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ便宜總代人ヲ選ハシメ其ノ集會ヲ以テ總會議ニ充ツルコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議長ハ創立委員ヲ以テ之ニ充ツ創立委員數人アルトキハ府縣知事其ノ中一人ヲ指定ス總會議又ハ總代人會ハ關係者又ハ總代人ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ創立委員ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ關係者又ハ總代人ノ代人ヲ許スコトヲ得

總會議又ハ總代人會ノ議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可
否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
總會議費又ハ總代人會費其ノ他創立ニ關スル費用ハ組合設置ノ後組合費ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 創立委員ハ組合同規約ノ議決ヲ經タルトキ府縣知事ニ其ノ許可ヲ請フヘシ

二 水家豫防組合

第五條 普通水利組合ハ灌溉排水ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第六條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第七條 水害豫防組合ハ水害防禦ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第八條 水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地、家屋及組合同規約ニ指定スル工作物ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第九條 水害豫防組合ニ於テ其ノ區域全部ニ涉リ灌溉排水ニ關スル事業ノ必要アルトキハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ灌溉排水ノ事業ニ關スル部分ニ付テハ普通水利組合ノ規定ヲ準用ス

第二章 組合ノ設置及廢止

第十條 水利組合ヲ設置セムトスルトキハ府縣知事ニ於

第十三條 普通水利組合關係者ノ總會議又ハ總代人會ニ於テ議決シタル組合同規約又ハ議決ノ方法法令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

水害豫防組合關係者ノ總會議若ハ總代人會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ議決スルモノ其ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第十四條 水利組合ハ組合同規約ノ許可又ハ前條第二項ニ依ル組合同規約ノ設定ニ依リ成立ス
前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ組合設置ノ旨ヲ告示スヘシ

第十五條 水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ハ普通水利組合ニ在リテハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ行ヒ水害豫防組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ行フ
前項ノ場合ニ於テ組合同規約ノ設定若ハ改正又ハ財產處分ヲ要スルトキハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ水害豫防組合ニ於テ協議關ハサルトキハ府縣知事之ヲ定ム

水利組合ハ民法上ノ義務ヲ完了スルニ非サレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

普通水利組合ノ區域ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合區域ニ編入セラルル土地アルトキハ管理者ハ其ノ土地ノ關係者ノ同意又ハ關係者ノ總會議若ハ總代人會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

前項總會議又ハ總代人會ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ創立委員ノ職務ハ管理者之ヲ行フ

第十六條 水利組合ノ處置分合又ハ區域ノ變更アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三章 組合ノ會議

第十七條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第十八條 組合會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

組合會議員選舉人選舉人ノ資格議員ノ定數延期及選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

組合會議員ノ選舉ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選舉録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

當選者定リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

組合會議員ノ選舉ニ付テハ衆議員議員選舉ニ關スル規則ヲ準用ス

第十九條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限り其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ管理者ハ十四日以内ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願スルコトヲ得

第一次監督官廳ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉又ハ當選ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十

日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及組合會ノ決定ハ無効トス

本條第一次監督官廳ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ府

組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ設定改正スル事
- 二 組合費ヲ以テ支辨スヘキ事業
- 三 職入出豫算ヲ定ムル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金組合費及夫役現品ノ賦課徴収ニ關スル事
- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
- 七 積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十 組合吏員ノ身元保證ニ關スル事
- 十一 組合ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事
- 二十四條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得
- 組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ管理者又ハ其ノ指定シタル吏員立會ノ上質地ニ就キ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二十五條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トシ管理者故障

縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事ハ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十一條 組合會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ組合會之ヲ決定ス

管理者ニ於テ組合會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ

本條組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事ハ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條 前二條ニ規定スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 組合ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

第二十四條 前二條ニ規定スル異議ノ決定訴願ノ裁決及

アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ涉ルモノニ在リテハ組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ例ニ依ル前項選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ議員中ヨリ議長ヲ選舉スル組合ニ在リテハ議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ

第二十六條 管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 組合會ハ毎年一回通常會ヲ開キ其ノ他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク

臨時會ニ付スヘキ事件ハ招集ノ告知ト共ニ之ヲ告知スヘシ但シ其ノ開會中急務ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ管理者之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ管理者ハ之ヲ招集スヘシ
管理者ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ組合會ヲ招集スルコトヲ得

章中規定スルモノノ外市制町村制ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特別ノ事情アル組合ニ於テハ府縣知事ハ組合會ヲ設ケス組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ總會ニ出席スヘキ組合員ニ關シテハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第四章 組合ノ管理

第三十三條 府縣知事ハ水利組合關係地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人ヲ指定シ其組合ノ事務ヲ管理セシムヘシ府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

管理者タル郡長又ハ市町村長故障アルトキハ其ノ代理者之ヲ代理ス
組合ノ區域數市町村ニ涉ル場合ニ於テ選舉區又ハ選舉分會ヲ設ケタル時ハ各市町村長又ハ其ノ代理者ハ管理者ノ求ニ依リ議員選舉ニ關スル事務ヲ管理スヘシ組合員及組合費賦課物件ノ異動ニ關スル事務ニ付テモ亦同シ

第三十四條 組合ノ出納其ノ他會計事務ハ郡長管理者タル場合ハ郡長ノ指定シタル郡書記ヲシテ之ヲ掌ラシメ市町村長管理者タル場合ハ其ノ市町村收入役ヲシテ之

組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 管理者ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
二 議長ニ於テ傍聽禁止ノ必要アリト認めタルトキ
三 議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項第三號ニ依ル發議ハ討論ヲ用キス其ノ可否ヲ決スヘシ

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急務ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條 組合規約ノ設定改正及普通水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條 組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本

ヲ掌ラシムヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ管理者ニ於テ第三十六條ノ吏員中ニ就キ會計事務ヲ掌ル者ヲ定ムルコトヲ得前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 組合ハ組合規約ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十六條 組合ハ書記技術員其ノ他ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

吏員ハ管理者之ヲ任免ス

第三十七條 管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

管理者ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及營造物ヲ管理スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 五 法令又ハ組合會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金

組合費及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

第二十八條 管理者ハ組合吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル組合吏員ニ對シテハ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三十九條 組合會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ組合規約ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ指揮ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項郡長ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ前二項府縣知事ノ處分ニ不服アル組合會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合會ノ議決公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ其ノ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ

議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

前項第一次監督官廳ノ處分ニ不服アル組合會ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ府縣知事ハ第一次監督官廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十條 組合會成立セス又ハ第二十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ管理者ハ第一次監督官廳ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

組合會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

組合會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條 組合會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セス又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ再決處

分シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

前項管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條 委員ハ管理者ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他組合事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第四十三條 吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 組合會議員及委員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得郡長又ハ市町村長ニ於テ管理者タル職務ヲ行フ爲要スル費用第三十三條第四項ノ事務ヲ行フ爲要スル費用及郡書記又ハ市町村收入役ニ於テ組合ノ會計事務ヲ行フ爲要スル費用ニ付亦同シ

吏員ニハ退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 費用辨償額給料額旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第四十六條 費用辨償給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ハ組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ財務

第四十七條 組合ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第四十八條 普通水利組合費ハ土地ニ對シテ之ヲ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋其ノ他第八條ニ依ル工作物ニ對シテ之ヲ賦課スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノハ土地ニ對シテノミ之ヲ賦課スルコトヲ得

普通水利組合ニ於テハ新ニ區域内ニ編入スル土地ニ付組合費ノ外一時ノ加入金ヲ徴收スルコトヲ得

第四十九條 組合ハ其ノ事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得

水害豫防組合ニ在リテハ夫役ニ限リ其ノ區域内ノ總居住者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

夫役現品及其ノ代納ニ關スル規定ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十條 非常災害ノ爲必要アルトキハ組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スルコトヲ要ス

水害豫防組合ニ於テハ前項ノ外出水ノ爲危險アルトキ

ニ限リ管理警察官又ハ監督官廳ニ於テ組合區域内ノ
總居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得
第一項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協
議關ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決
定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコト
ヲ得

第一項土地ノ一時使用ニ關スル組合ノ處分ニ不服アル
者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ
府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ
訴願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル
場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ内務大臣ニ訴
願スルコトヲ得

第五十一條 組合内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關
シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ
對シ特ニ賦課スルコトヲ得
舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ム
ルコトヲ得

第五十二條 組合費ノ賦課ヲ免除スヘキモノニ關シテハ
市町村税ノ例ニ依ル
第五十三條 組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル
範圍内ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

ニ關シテハ市町村税ノ例ニ依ル
前項ノ場合ニ關シテハ第五十四條第一項ノ規定ヲ準用
ス

第五十七條 組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促ニ付テハ手
數料ヲ徵收スルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ督促手數料ヲ其ノ市
町村ニ交付スヘシ組合ノ徵收金ハ市町村ノ徵收金ニ次
テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國税ノ
例ニ依ル

第五十八條 管理者ハ組合費ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中特
別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ其ノ納付ノ延
期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ニル場合ハ組合會ノ議
決ヲ經ヘシ

管理者ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合會ノ議決ヲ經テ
組合費ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條 組合費及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ
賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ賦課令狀ノ
交付後三月以内ニ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
加入金使用料及手數料ノ徵收ニ付テモ亦前項ノ例ニ依
ル

本條ノ異議ハ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服

前項ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得
第五十四條 組合ノ區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村
ハ管理者ノ求ニ依リ其ノ市町村内ニ於ケル組合費其ノ
他組合ノ收入ノ賦課徵收ヲ爲スヘシ
前項組合費其ノ他組合ノ收入ノ徵收ニ關シテハ組合規
約ノ規定ニ依リ徵收金百分ノ四以内ヲ其ノ市町村ニ交
付スルコトヲ得

第五十五條 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ
組合費其ノ他組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義
務ノ免除ヲ組合ニ請求スルコトヲ得
組合ニ於テ前項ノ請求ニ應セサルトキハ市町村ハ其ノ
通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ組合ノ第一次監督
官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴
願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコ
トヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合ニ於テ
其ノ裁決ニ不服アルトキハ直ニ内務大臣ニ訴願スルコ
トヲ得

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコ
トヲ得
本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ
第五十六條 組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促及滯納處カ

アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル
者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁
判所ニ出訴スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官
廳タル場合ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分ニ不服アル者ハ第
一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知
事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督官廳タル場合
ニ於テ其ノ裁決ニ不服アル者ハ直ニ行政裁判所ニ出訴
スルコトヲ得

組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分中差押物件ノ公賣
ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第六十條 組合ハ特定ノ目的ノ爲積立基金ヲ設クルコト
ヲ得

第六十一條 組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於
テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久
ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲
已ムヲ得サル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得
組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起

償ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ
借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘ
シ

第六十三條 管理者ハ毎會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ
會計年度前通常組合會ノ議決ニ付スヘシ
管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正
ヲ爲スコトヲ得

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第六十四條 組合費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期
シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出
スヘキモノハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ
支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第六十五條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル
爲豫備費ヲ設クヘシ
豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得
ス

第六十六條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ第一次監督
官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理

者ヨリ其ノ賸本ヲ組合ノ會計事務ヲ掌ル官吏員ニ交
付スヘシ

會計事務ヲ掌ル官吏員ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令
アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クル
モ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ
他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第六十八條 組合ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ
支拂金ノ例ニ依ル

第六十九條 組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖
ス
決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ會計事務
ヲ掌ル官吏員ヨリ之ヲ管理者ニ提出スヘシ管理者ハ
之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常會迄ニ組合會ノ認定
ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ハ之ヲ第一次監
督官廳ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ
決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者及其ノ代理者
共ニ議長タルコトヲ得ス

第七十條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必
要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 組合ノ聯合

第七十一條 水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ必要アル
トキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ水利組合
ノ聯合ヲ設クルコトヲ得

水利組合聯合ハ之ヲ法人トス

水利組合聯合ニシテ其ノ聯合組合ノ數ヲ増減シ又ハ共
同事業ノ變更ヲ爲サントスルトキハ組合ノ協議ニ依リ
府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ聯合ヲ解カムトスルト
キ亦同シ

水利組合聯合ニ關シテハ水利組合ニ關スル規定ヲ準用
ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ内務大臣
ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第七章 組合ノ監督

第七十二條 組合ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次
ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ
監督ス但シ組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市内ニ
止ル場合及郡内ニ止ルモ郡長管理者タル場合ハ第一次
ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ
監督ス

監督官廳ハ組合事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分
ヲ爲スコトヲ得

上級監督官廳 下級監督官廳ノ組合事務ニ關シテ爲シ
タル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得
第七十三條 本法ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起
ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル
日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以
内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノ
ハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ裁決書ノ交
付ヲ受ケタル日ヨリ其交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨ
リ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ
本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由
ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テ
ハ訴願法ノ規定ニ依ル
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セズ但シ行政
廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認
ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十四條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定
メテ組合會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
組合會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘ
シ

第七十六條 組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該
官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルト
キハ第一次監督官廳ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ
加フルコトヲ得

組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ニ於テ執行スヘキ事
件ヲ執行セサルトキハ第一次監督官廳ニ於テ之ヲ執行
スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏
員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政
裁判所ニ出願スルコトヲ得但シ府縣知事カ第一次監督
官廳タル場合ニ於テ其ノ處分又ハ裁決ニ不服アルトキ
ハ直ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十七條 組合ニ於テ負債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ
定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ內
務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第
三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘ
シ

- 一 組合規約ヲ設定改正スル事
- 二 不動產ノ管理及處分ニ關スル事
- 三 不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シ特ニ
賦課ヲ爲ス事
- 四 加入金使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル
事
- 五 積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 六 寄附及補助ヲ爲ス事
- 七 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第七十九條 組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘ
キ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト
認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十條 組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ
事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可
ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第八十一條 監督官廳タル府縣知事郡長ハ第三十五條ノ
委員及第三十六條ノ吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其
ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
郡長ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ
其ノ裁決又ハ府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ
內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命
シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ
得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間水利組合ノ公職
ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得ス

第八十二條 組合吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事
務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 雜則

第八十三條 本法ノ規定ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合
ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其ノ成立ニ至ル迄管
理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十四條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル
事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事
ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府
縣知事ヲ指定スヘシ

第八十五條 本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ
施行セス勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定ム

附則

第八十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
水利組合條例ハ之ヲ廢止ス

第八十七條 本法施行ノ際現ニ存スル水利組合ハ本法ニ
依リ設置シタルモノト看做ス

第八十八條 水利組合條例ニ依リ爲シタル諸般ノ行爲ハ
仍其ノ效力ヲ有ス

第八十九條 水利組合條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル
異議訴願又ハ訴訟ニ關シテハ水利組合條例ニ依ル

第九十條 本法施行ノ際現ニ存スル舊町村會又ハ水利土
功會ニシテ其ノ目的トスル事業カ本法ノ規定ニ抵觸セ
サルトキハ之ヲ本法ノ規定ニ依リ設置シタル水利組合
ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從來ノ吏員及議員ハ總テ其ノ職ヲ失
フモノトス

第一項ノ水利組合及其ノ管理者ハ府縣知事ニ於テ直ニ
之ヲ告示スヘシ

第三章 河川 砂防

河川法

(明治二十九年四月法律第七十一號)

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第一條 此法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公
共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ
第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル
流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ム
ルトキハ地方行政廳ハ其河川ノ區域ヲ變更スヘシ
第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコ
トヲ得ス
第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シ
タルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除
クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ
生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ノ除却若ハ輕減スル爲ニ
設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト
認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場
合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ
第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ
從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面
又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ
管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲ニ必要ト認ム
ルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持
修繕ヲナスコトヲ得
第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維
持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通
航料徴收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負
擔セシムルコトヲ妨ケス
第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所ニ府
縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ
若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ
付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事
ナルトキハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ
工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シ
テ之ヲ施行セシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方
行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得
第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ
下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシ

メ又ハ其ノ維持ヲナスシムルコトヲ得
第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲ
ナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者
ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持
ヲナスシムルコトヲ得
他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモ
ノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工
事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得
第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生
シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河
川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得
河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ
河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ
地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得
第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコト
ヲ得ス
第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム
第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ
調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ

以テ之ヲ定ム
主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテ
ハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更
シタルコトヲ證スルヲ妨ケス
第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置
クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手當、職務權限並
其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
第三章 河川ノ使用ニ關スル
制限並警察
第十六條 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム
第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セ
ムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
一 流水ヲ停滞セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫
防スル爲ニ施設スル工作物
二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物
三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工
作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床
下ニ於テ施設スル工作物
第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行為ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法
公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用者ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ得

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並

河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ必要ナル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得
災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必

要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ

追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ己ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲ニ新築若ハ改築工事ヲ施シタル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ處アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スル義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若クハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之レヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ付キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令

官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ整頓ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモノ不十分ナルキハ千圓以内ニ於テ指定

ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルトコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ争アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタルトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限

經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

河川法施行規程

(明治二十九年六月勅令第二百三十六號)

第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ(三十二年勅令第二百八十六號ヲ以テ本條中追加)

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ內務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ內務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ
前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ內務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ內務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫芝草竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日前ニ又之ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ
公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコ

トヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ

第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政應ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス

河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル程度ニ於テ效力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

●砂防法

(明治三十年三月法律第二十九號)

第一章 總則

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第四章 警察、監督及強制手續

第五章 訴願及訴訟

第六章 附則

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業

ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ法ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 法ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於

テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ上級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第三章 砂防ニ關スル費用ノ

負擔、土地所有者ノ

權利義務並收入等

第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得

前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得 災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得

爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域內ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域內ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若クハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ隣接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以內ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ

前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ砂防工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣內ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣內ノ公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ

所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手

續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必

要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ其ノ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生ズル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生ズル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生ズヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス
第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滞納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ適用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ履行セズ若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セザルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過

規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利